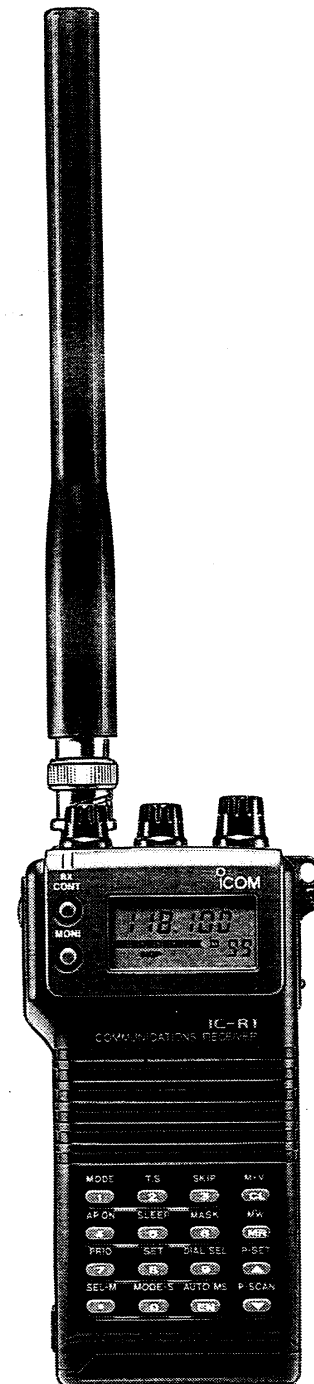


ICOM

取扱説明書

COMMUNICATION RECEIVER
IC-R1

Icom Inc.



はじめに

このたびは、IC-R1をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- 保証書(別添)は、必ず「販売店・購入日」等の記入を確かめて販売店からお受取りください。
- 後々のために、この取扱説明書と保証書は大切に保管してください。

おことわり

本機は、0.1~1,300MHzの広範囲で動作する受信機ですが、電波法の規制により、受信できない周波数帯があります。受信できる範囲は61ページの定格に記載していますのでご参照願います。

おねがい

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と通信の秘密に関して定められています。本機を取扱いする上では、これに十分な配慮をされるようお願いいたします。

もくじ

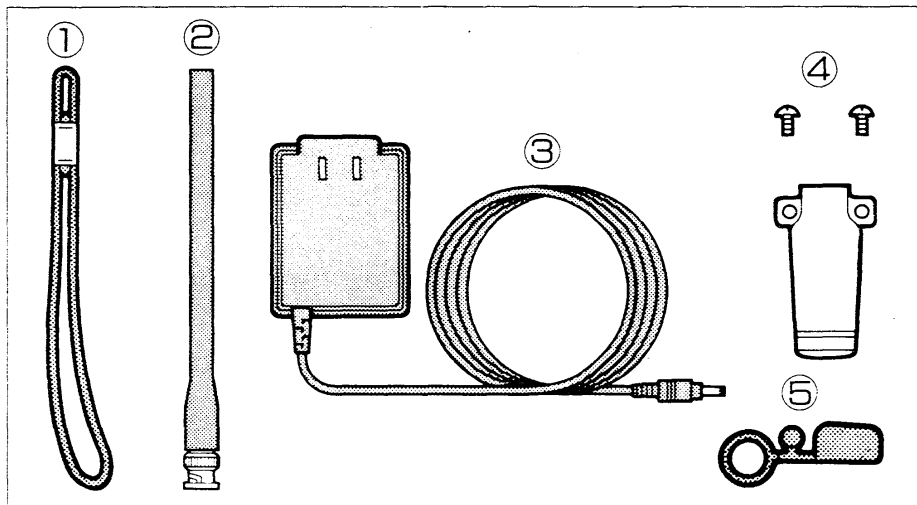
■はじめに	1
■もくじ	1~2
■ご使用の前に	3~4
■付属品の確認と使いかた	
■内蔵電池の充電のしかた	
■使用場所について	
■お手入れのしかた	
■各部のなまえ	5~6
■本体	
■キーボード	
■ディスプレイ	
■基本的な使いかた(1)	7~8
■電源のON/OFF	
■音量の調整	
■感度の調整	
■VFOモードのセットのしかた	
■アマチュア無線の聴きかた	9~10
■AM放送の聴きかた	11~12
■FM放送の聴きかた	13~14
■テレビ放送の聴きかた	15~16
■基本的な使いかた	17~18
■モードの選びかた	
■TSの選びかた	

■ 基本的な使いかた(2)	19~20
■ 選局のしかた	
(キーボード・ダイヤル・ダイヤルセレクト選局)	
■ プログラムスキャンによる選局	21~24
■ アマチュア無線の聴きかた	25~26
■ パーソナル無線の聴きかた	27~28
■ メモリーチャンネルの使いかた	29~32
■ 記憶のしかた	
■ 呼び出しかた	
■ VFOへの移しかた	
■ マスクのしかた	
■ スキャンのしかた	33~40
■ しゅくみ	
■ プログラムスキャン	
■ メモリースキャン	
■ セレクトメモリースキャン	
■ モードセレクトスキャン	
■ オートメモリーライトスキャン	
■ プライオリティスキャン	
■ 時計モードの使いかた	41~44
■ 時刻の合わせかた	
■ タイマーの使いかた	
■ 呼び出しかた(パワーオン、スリープタイマー)	

■ 便利な機能の使いかた	45~48
■ 周波数ロック	
■ 減電圧表示	
■ ビープ機能	
■ リセット操作	
■ ディスプレイコントラスト	
■ パワーセーブ機能	
■ リチウム電池	
■ モニター機能	
■ 照明機能	
■ セットモードについて	49~56
■ 充電のしかた	57~58
■ オプションについて	58
■ 故障かなと思っても	59
■ アフターサービスについて	60
■ 定格	61
■ メモ	62

ご使用前に

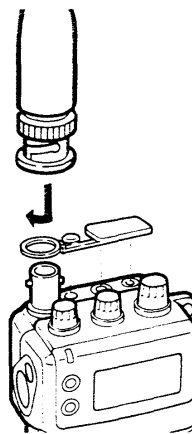
■付属品の確認と使いかた



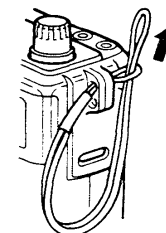
- | | |
|----------------------|---------|
| ①ハンドストラップ.....1 | ●取扱説明書 |
| ②アンテナ.....1 | ●愛用者カード |
| ③充電器(BC-73).....1 | ●保証書 |
| ④ベルトクリップ(ビス2本付)....1 | |
| ⑤防水キャップ.....1 | |

■アンテナおよび防水キャップ

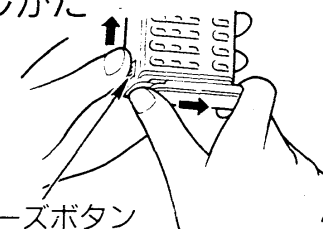
※アンテナを付けないと受信できません。



■ハンドストラップ



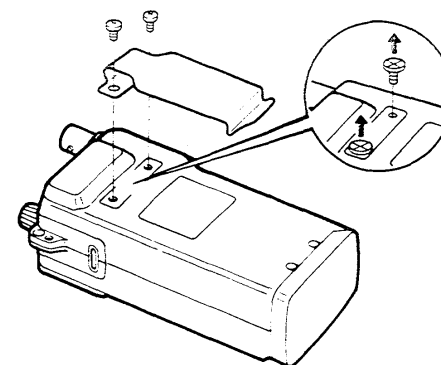
■ボトムキャップのはずしかた



リリースボタン

■ベルトクリップ

※取り付け時は、本体ネジ穴をふさいでいるホールブッシュを取りのぞいてください。



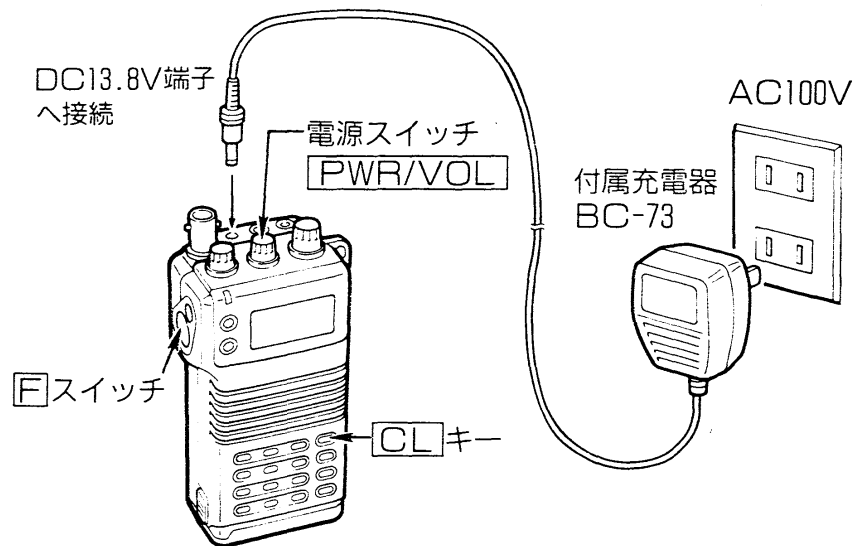
ご購入後、初めて電源を入れるときの

■内蔵電池の充電とリセット操作

本機には、ニッカド(NiCd)電池が内蔵されています。

ご使用の前に、付属の充電器で十分に充電し、充電したあとに「リセット」操作を行ってください。

■付属の充電器を図のように接続します。



■リセット操作

「F」と「CL」キーを押しながら、電源スイッチをONにします。

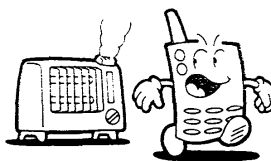
※本体の電源スイッチをONにすると充電できません。

※充電完了の目安は約15時間です。

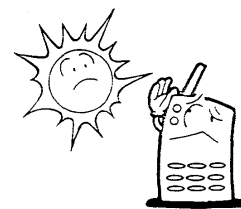
■使用場所について

次のような場所で使用しないでください。

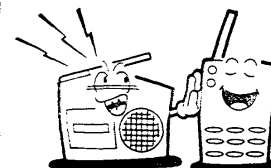
高温多湿なところ



長時間直射日光のあたるところ

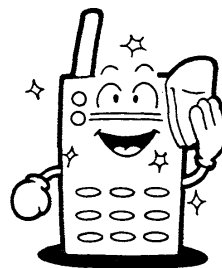


テレビやラジオ、パソコンのそば

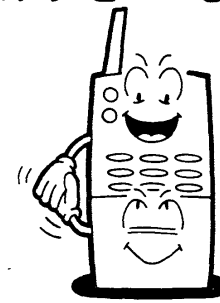


■お手入れのしかた

乾いた布で!!



ボトムキャップかバッテリーパックをいつも装着!!



はずすとショートして故障の原因

各部のなまえ

※○の数字は詳しい操作・機能説明が示めされているページです。

■本体

■DC13.8V外部電源用ジャック

外部電源を接続する端子です。
また、内蔵あるいは別売のニッカド電池を充電するときの端子です。

■アンテナコネクタ—③

■SQUELCH(感度)つまみ⑧

■RX(受信)ランプ

信号を受信すると緑色に点灯します。

■W(ウォッチ)スイッチ④①

時計機能を働かせるスイッチです。

■F(ファンクション)スイッチ⑥

このスイッチを押しながら、キー操作をするとブルー(青色)で表示している機能がはたらきます。本文では[F]と表示しています。

■MONI(モニター)スイッチ④⑥

弱い信号を受信したときに押し、そのときの条件によっては受信音がきき取りやすくなります。

■リリースボタン③

このボタンを上押ししてボトムキャップや別売のバッテリーパックを取りはずします。

■SP(外部スピーカー)ジャック

外部スピーカーやイヤホンを接続します。
(インピーダンス8Ω)この端子を使用したときは、本体のスピーカーは動作しません。

■LINE OUTジャック

テープレコーダー用の端子です。
直径2.5mmのミニプラグを使用してください。

■ダイヤル

■PWR(電源)/VOL(音量)つまみ⑦

■CONT(コントラスト)スイッチ④⑥

ディスプレイの文字表示のコントラスト(輝度)を変えるスイッチです。

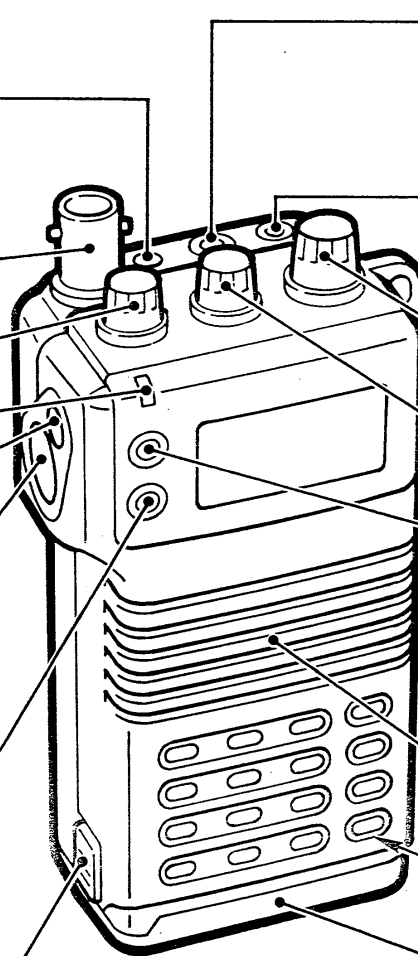
■LIGHT/LOCKスイッチ(側面)④⑤

■スピーカー部

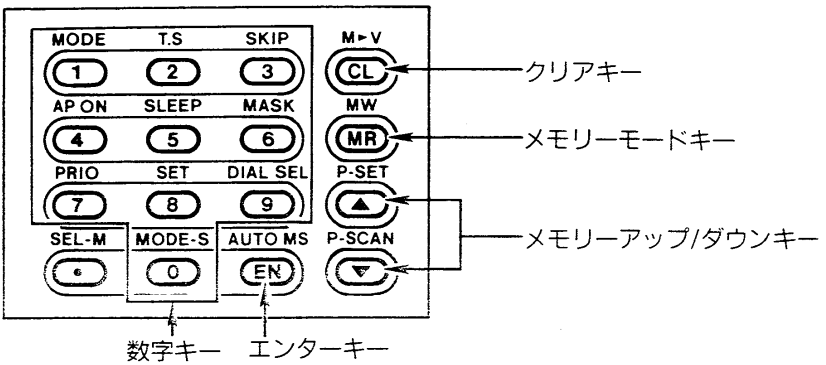
■キーボード部⑥

■ボトムキャップ④

別売のバッテリーパックを使用しない場合はつねに装着してください。ショートや感電の原因になります。



■キーボード



■ディスプレイ



■ファンクションキーの機能概略 (Fスイッチを押しながらキーを押したとき)

操作	名称	VFOモード時のはたらき	メモリーモード時のはたらき
F + 1	MODE	電波型式の設定	無効
F + 2	T.S	チューニングステップの設定	無効
F + 3	SKIP	無効	メモリースキャン時のスキップCH指定
F + 4	AP ON	パワーオンタイマーのスタート(時計モードのときのみ有効)	
F + 5	SLEEP	スリープタイマースタート	スリープタイマースタート
F + 6	MASK	無効	メモリーマスクのON/OFF
F + 7	PRIO	プライオリティスキャンのスタート/ストップ	プライオリティスキャンのスタート/ストップ
F + 8	SET	SETモードにする	無効
F + 9	DIAL SEL	ダイヤルセレクトのステップ設定	無効
F + 0	SEL-M	無効	メモリーセレクトスキャンのスタート/ストップ
F + 0	MODE-S	無効	モードセレクトスキャンのスタート/ストップ
F + EN	AUTO-MS	オートメモリーライトスキャンのスタート/ストップ	無効
F + CL	M▶V	無効	メモリーの内容をVFOに転送する
F + MR	MW	メモリーチャンネルに記憶させる	無効
F + ▲	P-SET	プログラムスキャンの周波数範囲を設定するモードとなる	無効
F + ▼	P-SCAN	プログラムスキャンのスタート/ストップ	メモリースキャンのスタート/ストップ

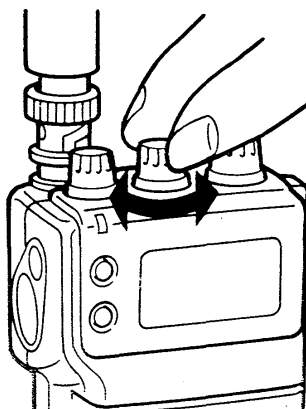
表示	なまえとおもな機能
F	ファンクション表示/Fキーを押したとき点灯
L	ロック表示
B	バッテリー消耗表示
W FM AM	モード表示/W FM, FM, AMを表示
AUTO	オートメモリーライトスキャン表示
SET	セットモード表示
周波数表示部	周波数表示/左から1000MHz台、100MHz台、10MHz台、1MHz台、100kHz台、10kHz台、1kHz台を表示
▲ ▼	スキャン方向表示
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	Sメーター/信号の強さを表示する
■	メモリーモード表示/メモリーモード時に点灯。VFOモード時消灯
00	メモリーチャンネル表示
SCAN	スキャン動作表示
SKIP	スキップ表示
PROG	プログラムスキャン表示
PRIO	プライオリティ表示
TS 0.5 8 9 10 12.5 15 20 25 30 50	チューニングステップ表示

基本的な使いかた(1)

■電源のON/OFF

通常のON/OFF操作

1. **[PWR/VOL]**をまわす。
右で「ON」
左で「OFF」



購入後はじめて電源をONするとき

リセット操作のしかた

1. **[F]**と**[CL]**を押しながら
[PWR/VOL]をまわす。

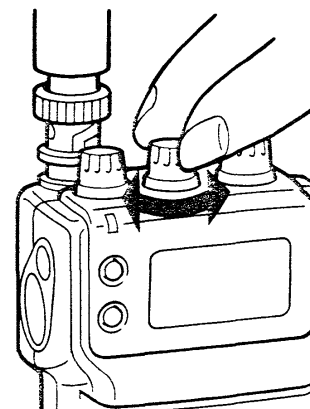
※内蔵電池が消耗している場合もありますので、十分に充電を行ってからご使用ください。(P 4参照)

※外部電源使用時に、電源「ON」の状態コードを抜いたりバッテリーパックをはずさないでください。

■音量の調整

1. **[PWR/VOL]**をまわす。

右へまわすと音量が大きく、
左へまわすと小さくなります。



本機は広い周波数を受信できる仕様ですが、設計上、受信できにくかったり、ノイズが発生する周波数があります。

受信周波数に合った外部アンテナをご使用しても、地域差や電波の状況により信号受信ができない場合があります。

■感度の調整

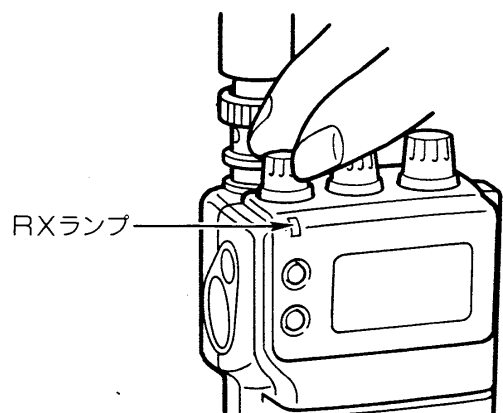
1. **[SQUELCH]**をまわす。

※通常、信号を受信していないときにザーというノイズが出ますので、このノイズが消える位置にします。

ノイズが消えるとRXランプが消灯します。

※この操作をしないと各種のスキャン機能が働きません。

※あまり右へまわしすぎると弱い信号が受信できなくなります。



■VFOモードのセットのしかた

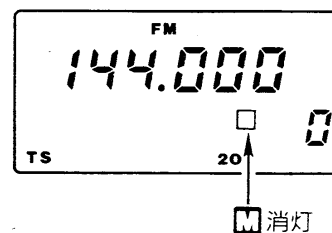
本機には、「VFOモード」と「メモリーモード」があります。

通常の選局操作は、VFOモードで行います。

VFOモードのセット

1. **[CL]**を押す。

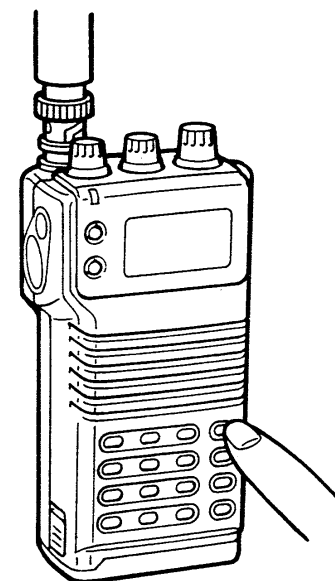
※ **M**表示の消灯を確認します。



メモリーモードのセット

1. **[MR]**を押す。

※ **M**表示の点灯を確認します。

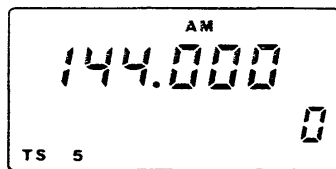
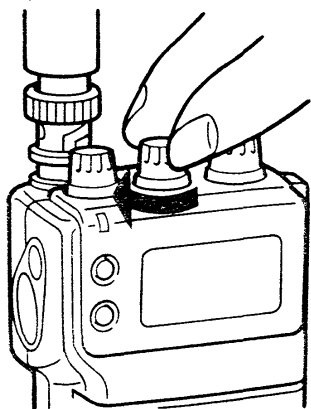


※メモリーモードの詳細な操作方法はP29～P32をご覧ください。

アマチュア無線の聴きかた (ダイヤル

1. 電源を入れる。

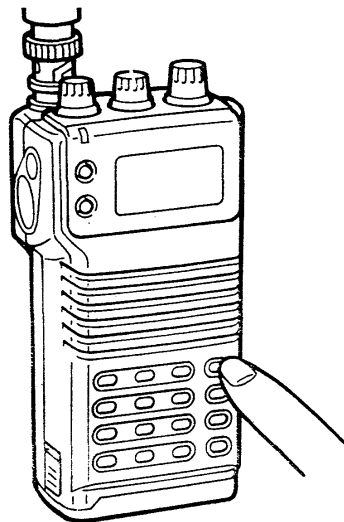
1. **PWR/VOL** を右へまわす。



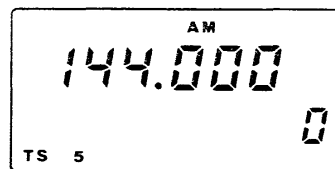
※電源を切るときは、**PWR/VOL** をカチッというまで左へまわしきる。

2. VFOモードを選ぶ。

1. **CL** を押す。

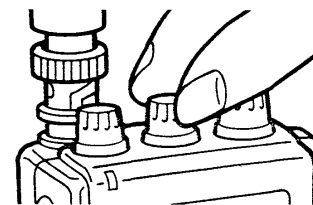


※ **M** 表示の消灯を確認します。

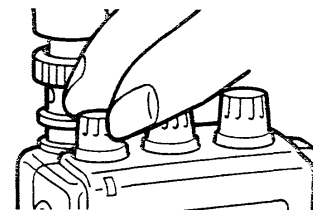


3. 音量と感度を調整する。

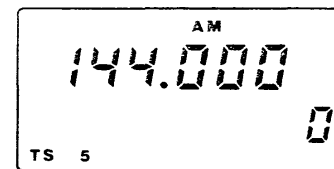
1. **PWR/VOL** をまわす。



2. **SQUELCH** をまわす。



※ザァーというノイズが消えるところまでまわします。

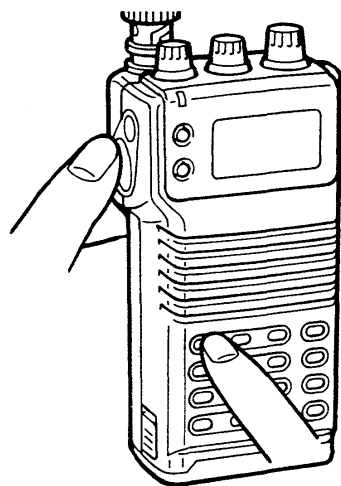


※ **SQUELCH** を右にまわしすぎると弱い信号が受信できなくなります。

選局) 145.000MHzを聴く場合

4. モードを選ぶ。

1. **F** を押しながら
2. **1** を押す。
3. **FM** を選ぶ。

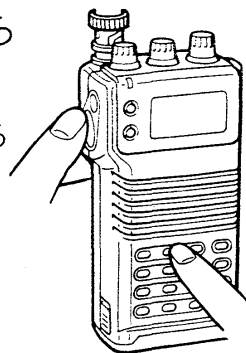


※ **1** を押すごとに **FM**、**WFM**、**AM** の順に表示が変わります。

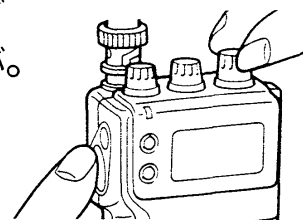
5. TS(チューニングステップ)を選ぶ。

1. **F** を押しながら
2. **2** を押す。

※ **F** は選択が完了するまで押し続けてください。



3. **F** を押し続けながら
4. **ダイヤル** で "20" を選ぶ。

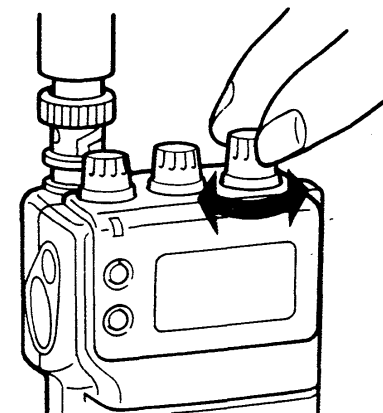


※ダイヤルを右へまわすと大きなステップ、左へまわすと小さいステップ表示に切り換わります。

6. 目的周波数を選ぶ。

1. **ダイヤル** をまわす。

※周波数が20kHzの幅で切り換わります。

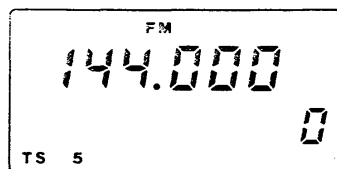
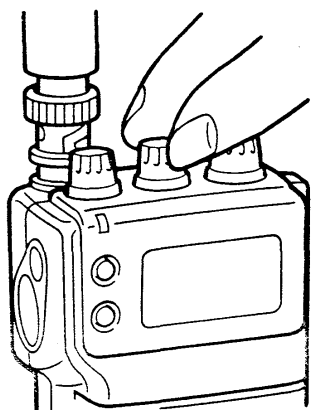


※時計まわりでアップ、反時計まわりでダウンします。

AM放送の聴きかた(キーボード選局)

1. 電源を入れる。

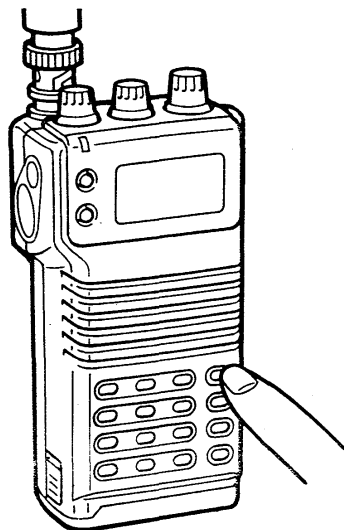
1. **[PWR/VOL]** を右へまわす。




※電源を切るときは、**[PWR/VOL]** をカチッというまで左へまわしきる。

2. VFOモードを選ぶ。

1. **[CL]** を押す。

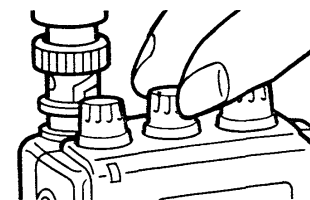


※  表示の消灯を確認します。

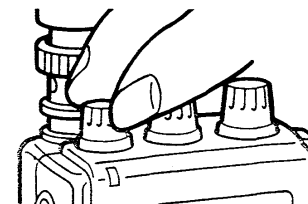


3. 音量と感度を調整する。

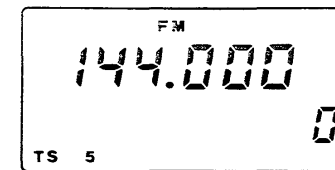
1. **[PWR/VOL]** をまわす。



2. **[SQUELCH]** をまわす。



※ザァーというノイズが消えるところまでまわします。



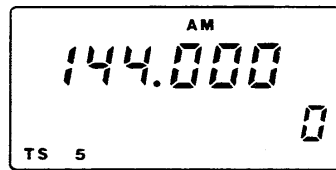
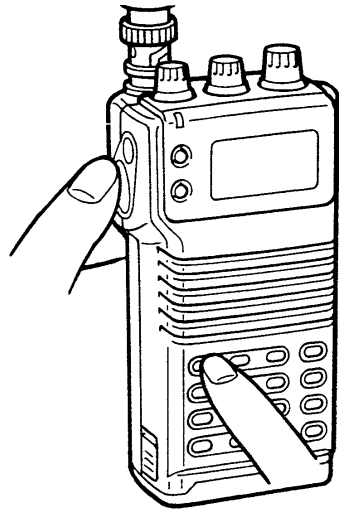
※**[SQUELCH]** を右にまわしすぎると弱い信号が受信できなくなります。

666kHzを聴く場合

本機の受信性能では、AM放送に関して受信する地域から離れた遠距離にある放送局は、受信できないことがあります。また、電波がじゃまされ易い地域においても受信しにくいことがあります。

4. モードを選ぶ。

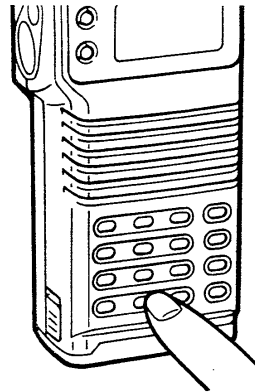
1. **F** を押しながら
2. **1** を押す。
3. **AM** を選ぶ。



※ **1** を押すごとに **WFM**、**FM**、**AM** の順に表示が変わります。

5. 目的周波数を入力する。

1. **0** **0** **6** **6** **6** **EN** の順に押す。



まちがって入力した場合

1. **EN** が **CL** を押す。
2. **0** **0** **6** **6** **6** **EN** と押す。

※この周波数から他の放送局へ移りたい場合は、TSを5kHzまたは9kHzにセットし、ダイヤルで選局します。(TS→P10参照)

■簡単な入力方法

□以下の桁が**0**の場合は省略することができます。

たとえば

144.000 → **1** **4** **4** **EN**

0.160 → **0** **0** **1** **6** **EN**

3.500 → **3** **0** **5** **EN**

1025.000 → **1** **0** **2** **5** **EN**

■0.5kHz(500Hz)の入力しかた

852.124.⁵ →

8 **5** **2** **0** **1** **2** **4** **0** **※** **EN**

※は**5**～**9**いずれかのキー

消したい時は

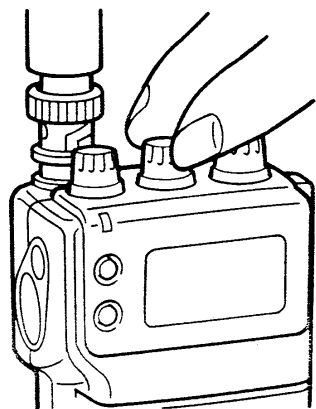
8 **5** **2** **0** **1** **2** **4** **0** **※** **EN**

※は**0**～**4**のいずれかのキー

FM放送の聴きかた(キーボード選局)

1. 電源を入れる。

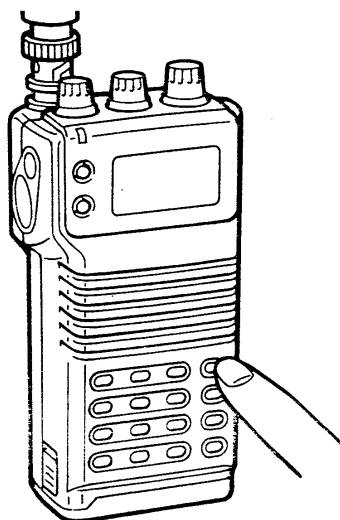
1. **[PWR/VOL]**を右へまわす。



※電源を切るときは、**[PWR/VOL]**をカチツというまで左へまわしきる。

2. VFOモードを選ぶ。

1. **[CL]**を押す。

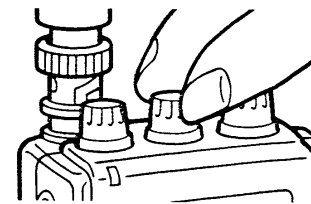


※ **[]**表示の消灯を確認します。

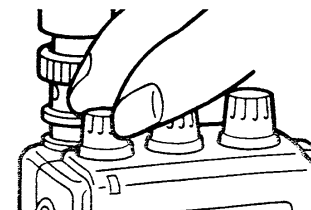


3. 音量と感度を調整する。

1. **[PWR/VOL]**をまわす。



2. **[SQUELCH]**をまわす。



※ザーというノイズが消えるところまでまわします。

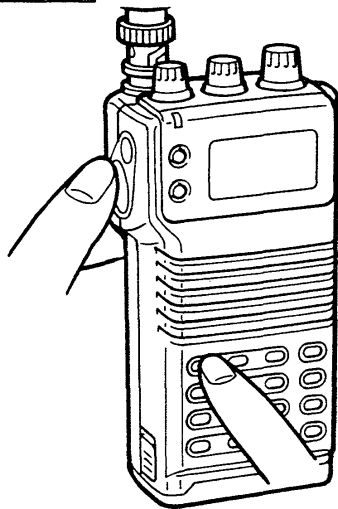


※**[SQUELCH]**を右にまわしすぎると弱い信号が受信できなくなります。

&ダイヤルスキャン) 80.200MHzを聴く場合

4. モードを選ぶ。

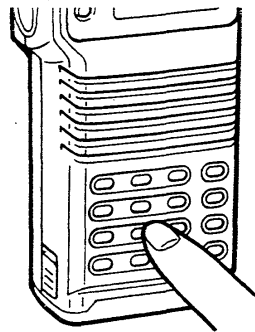
1. **F**を押しながら
2. **1**を押す。
3. **WFM**を選ぶ。



※ **1**を押すごとに **FM**、**WFM**、**AM**の順に表示が変わります。

5. 目的周波数を入力する。

1. **800・2000 EN**の順に押す。



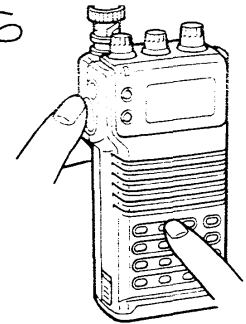
まちがって入力した場合

1. **EN**か**CL**を押す。
2. **800・2000 EN**の順に押す。

※ **ダイヤル**を右へまわすと大きなステップ、左へまわすと小さいステップ表示に切り換わります。

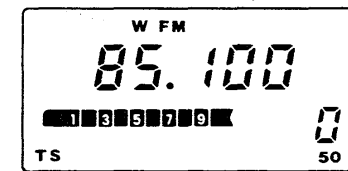
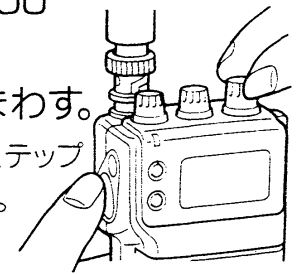
ほかの放送局を聴きたいときは

1. **F**を押しながら
2. **2**を押す。



3. **F**を押し続けながら
4. **ダイヤル**で"50"を選ぶ。
5. **ダイヤル**をまわす。

※周波数が50kHzステップで切り換わります。

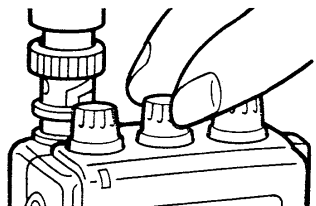


※上記の選局操作を **ダイヤルスキャン**と呼びます。

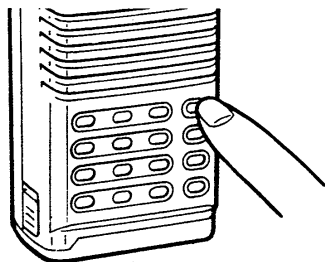
テレビ放送の聴きかた (キーボード)

1. 電源を入れVFOモードを選ぶ。

1. **PWR/VOL** を右へまわす。



2. **CL** を押す。



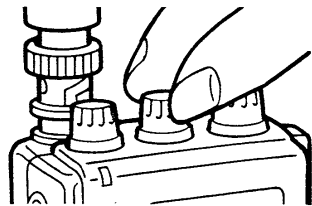
※ **FM** 表示の消灯を確認します。



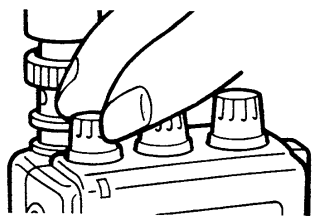
※電源を切るときは、**PWR/VOL** をカチッというまで左へまわしきる。

2. 音量と感度を調整する。

1. **PWR/VOL** をまわす。



2. **SQUELCH** をまわす。

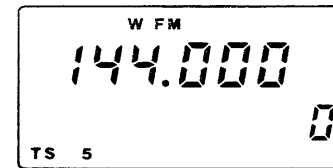
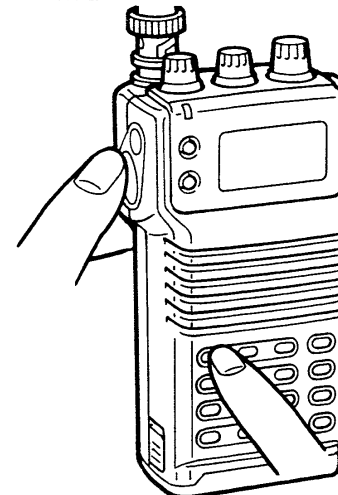


※ザーというノイズが消えるところまでまわします。



3. モードを選ぶ。

1. **F** を押しながら
2. **1** を押す。
3. **WFM** を選ぶ。



※ **1** を押すごとに **FM**、**WFM**、**AM** の順に表示が変わります。

選局) UHF40チャンネルを聴く場合

■国内テレビ放送(音声)の周波数リスト

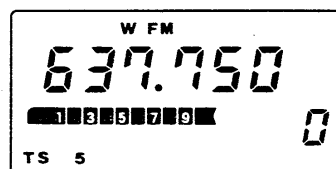
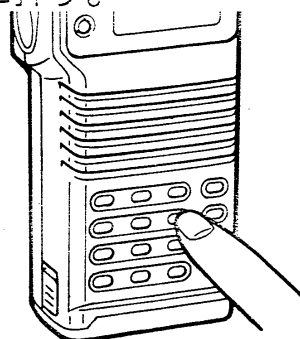
チャンネル番号	音声周波数	チャンネル番号	音声周波数
VHF 1CH	95.75	UHF 32CH	589.75
// 2CH	101.75	// 33CH	595.75
// 3CH	107.75	// 34CH	601.75
// 4CH	175.75	// 35CH	607.75
// 5CH	181.75	// 36CH	613.75
// 6CH	187.75	// 37CH	619.75
// 7CH	193.75	// 38CH	625.75
// 8CH	197.75	// 39CH	631.75
// 9CH	203.75	// 40CH	637.75
// 10CH	209.75	// 41CH	643.75
// 11CH	215.75	// 42CH	649.75
// 12CH	221.75	// 43CH	655.75
UHF 13CH	475.75	// 44CH	661.75
// 14CH	481.75	// 45CH	667.75
// 15CH	487.75	// 46CH	673.75
// 16CH	493.75	// 47CH	679.75
// 17CH	499.75	// 48CH	685.75
// 18CH	505.75	// 49CH	691.75
// 19CH	511.75	// 50CH	697.75
// 20CH	517.75	// 51CH	703.75
// 21CH	523.75	// 52CH	709.75
// 22CH	529.75	// 53CH	715.75
// 23CH	535.75	// 54CH	721.75
// 24CH	541.75	// 55CH	727.75
// 25CH	547.75	// 56CH	733.75
// 26CH	553.75	// 57CH	739.75
// 27CH	559.75	// 58CH	745.75
// 28CH	565.75	// 59CH	751.75
// 29CH	571.75	// 60CH	757.75
// 30CH	577.75	// 61CH	763.75
// 31CH	583.75	// 62CH	769.75

本機には 100チャンネルのメモリー機能があります。あらかじめ周波数を記憶させておくと簡単な操作で選局が行えます。(P29参照)

4. 目的周波数を入力する。

1. **6 3 7 . 7 5 0** **EN**

の順に押す。



まちがって入力した場合

1. **EN**か**CL**を押す。

2. **6 3 7 . 7 5 0** **EN**

の順に押す。

※リストを参考に周波数を入力してください。

ほかの放送局を聴きたいときは

1. **F**を押しながら

2. **9**を押す。

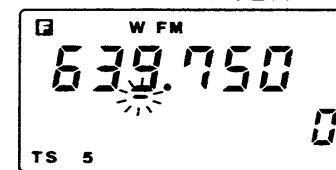
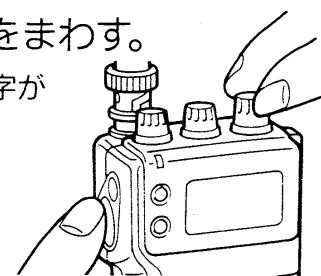
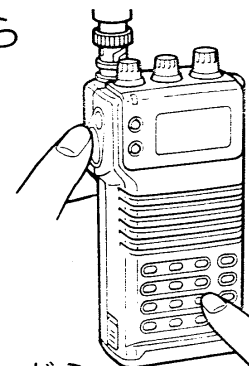
周波数の下に
バーが点灯。

※この**バー**を1MHz
桁で点灯するように
9を押す。

3. **F**を押し続けながら

4. **ダイヤル**をまわす。

※1MHz台の数字が
変わります。



※この操作を**ダイヤルセレクト**といいます。

バーの位置を変えることで、100MHz・10MHz・1MHz・100kHzステップの移動ができます。大幅な周波数移動に便利です。(P20参照)

基本的な使いかた(2)

■モードの選びかた

■モードとは電波のかたち電波型式のことをいいます。本機は、WFM、FM、AMの3種類のモードに対応しています。

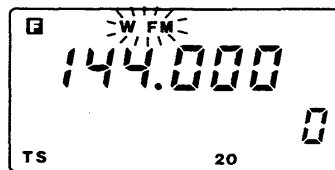
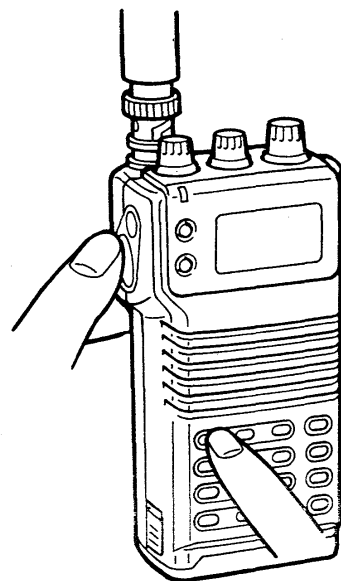
■WFMは、FM放送やテレビ放送に使われています。

FMは、アマチュア無線やパーソナル無線をはじめ、多くの通信に用いられています。

AMは、AM中波放送やアマチュア無線の一部、短波放送、市民無線、などに使われています。

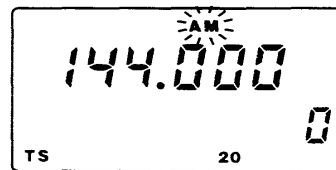
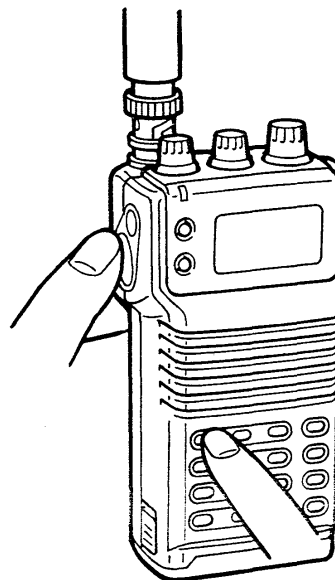
■目的の放送や通信に合ったモードを選ばないと確実に受信できません。

1. **[F]** を押しながら、

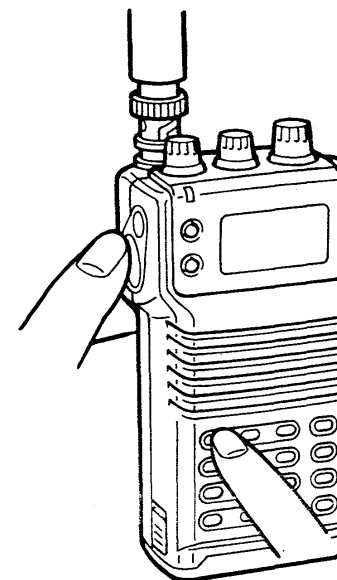


2. **[1]** を押す。

押すたびに **[AM]**
[WFM]、**[FM]** が点灯。



3. 目的のモードを選ぶ。



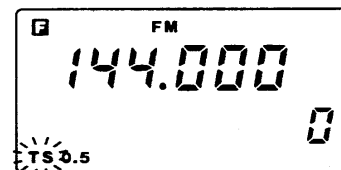
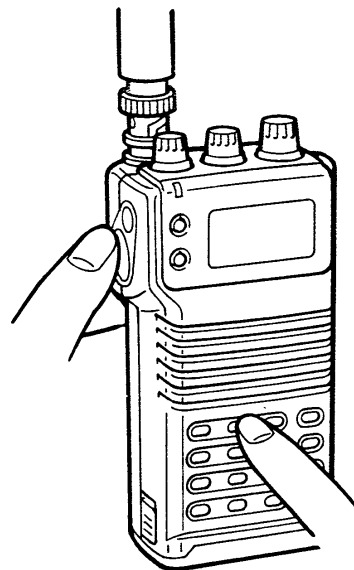
■TS(チューニングステップ)の選びかた

■放送や通信は、ある一定の周波数間隔で電波を発射しています。TS(チューニングステップ)は、選局操作の際目的の放送や通信に合わせて選びます。本機は、0.5、5、8、10、12.5、15、20、25、30、50の10のステップが選べます。ダイヤル選局、ダイヤルスキャン、プログラムスキャン時に必要ですので、確実な操作でTSを選んでください。

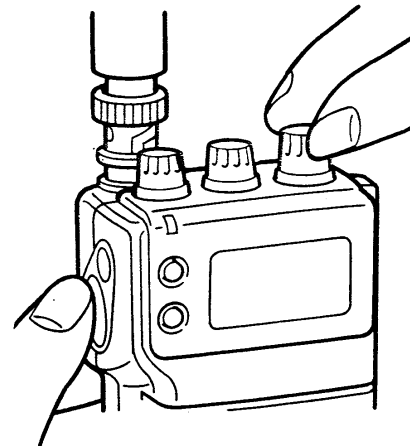
■周波数に対するモードとTSの目安

周波数帯	モード	TS
0.100~ 29.000	AM	5 kHz
29.001~ 76.000	FM	5
76.001~ 108.000	W FM	50
108.001~ 137.000	AM	25
137.001~ 170.000	FM	5
170.001~ 225.000	W FM	50
225.001~ 470.000	FM	5
470.001~ 770.000	W FM	50
770.001~1000.000	FM	12.5
1000.001~1300.000	FM	10

1. **[F]** を押しながら、
2. **[2]** を押す。
[TS] 点滅を確認します。



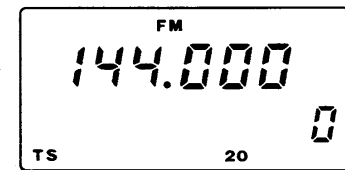
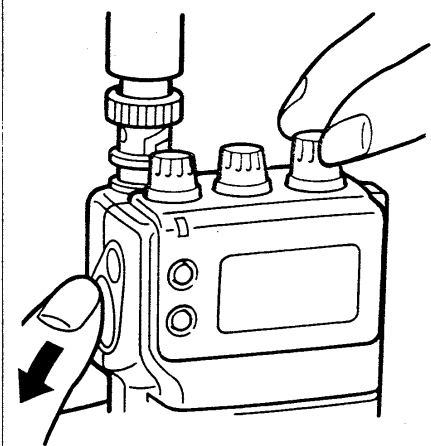
3. **[F]** を押しつづけながら **[ダイヤル]** をまわす。



※ダイヤルは右へまわすと大きなステップ、左へまわすと小さなステップ表示に切り換わります。



4. 目的のTSを選んだら **[F]** をはなす。



※1.629MHz以下は9kHzのTSが設定できます。

■選局のしかた キーボード選局

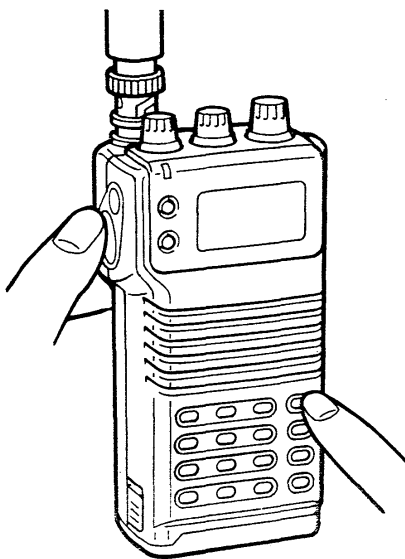
■本機は多彩な選局機能を備えています。ここでは、キーボードから直接周波数の数字を入力する「キーボード選局」の操作とダイヤルをまわして周波数を選ぶ「ダイヤル選局」の方法を説明します。

■メモリー機能を使った各種の選局方法についてはP29～P32をお読みください。

■本機は、0.1～1300MHzの範囲で選局操作ができます。キーボード選局でこの範囲外の周波数を入力しても[EN]を押したときに前の周波数に戻ります。

1. VFOモードにする。

[CL]を押す。



※ [M]表示の消灯を確認。



2. 目的周波数を入力する。

たとえば145.240MHzの場合は……

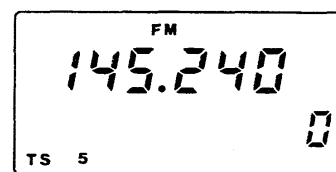
[1][4][5][.] [2][4][0]

[EN]と押す。

※ [1][4][5][.] [2][4]

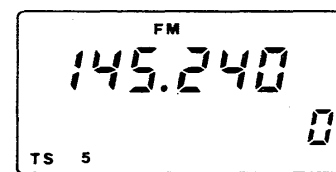
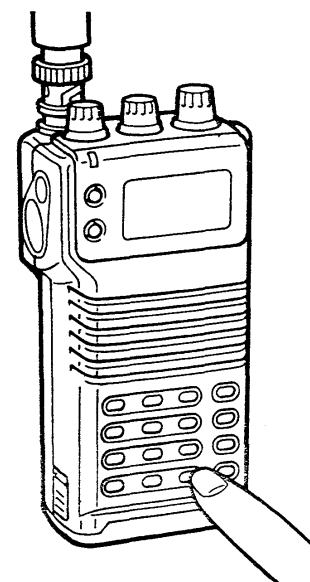
[EN]と下位の0の数値を省略した入力もできます。

※その他の入力のしかたはP12をご覧ください。



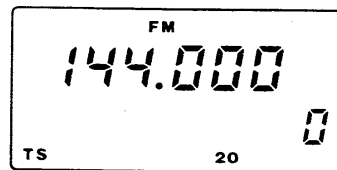
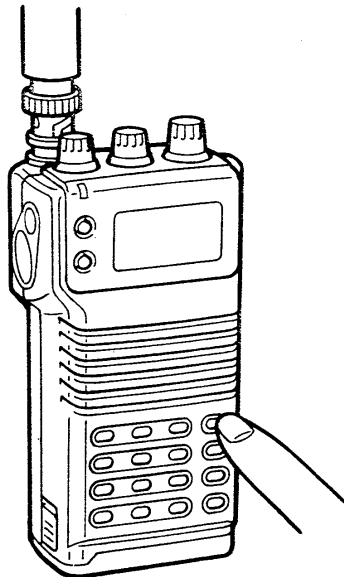
まちがったときは

1. [EN]か[CL]を押す。
2. もう一度数値を入力する。

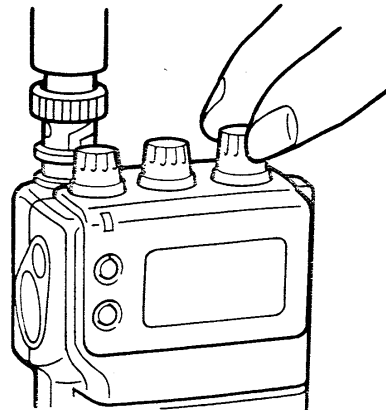


ダイヤル選局

1. VFOモードにする。
2. TSを選ぶ。



3. **ダイヤル**をまわす。



右へまわすと周波数が高く左へまわすと低くなります。



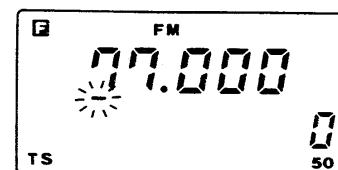
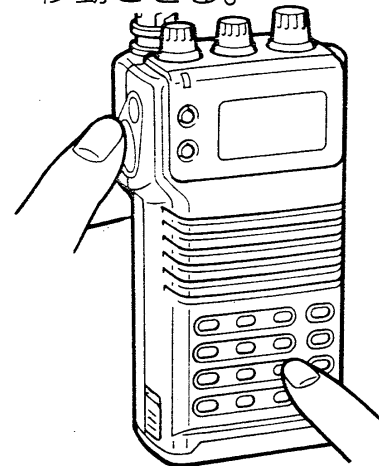
大幅な周波数移動に便利。

ダイヤルセレクト選局

1. **F**を押しながら
2. **9**を押す。

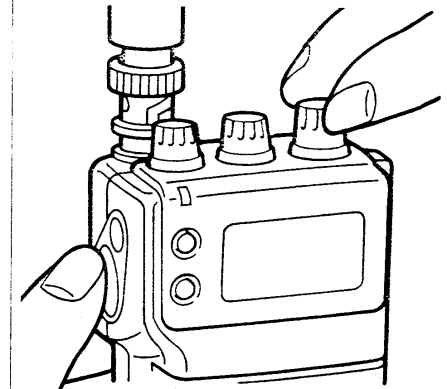
周波数の下に**バー**点灯を確認します。

3. **9**を押して**バー**を移動させる。

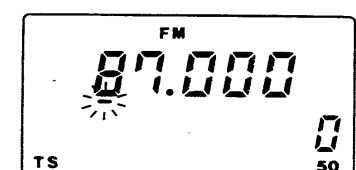


100MHz台、10MHz台、1MHz台、100kHz台の大きな周波数移動ができます。

4. **F**を押しながら**ダイヤル**をまわす。
バーで選んだ桁が左へまわすと低く、右へまわすと高くなります。



Fをはなすと通常のステップに戻ります。



■プログラムスキャンによる選局 その1. (スキャンさせる周

■プログラムスキャンは、周波数を自動的に切り換えて、信号を探す選局方法です。

■スキャンを行うためには、周波数の範囲(上限と下限)をあらかじめメモリー(記憶)セットします。

■メモリーは下限をA、上限をBとして0A/0b~9A/9bまで10グループまで設定できます。

■ここでは、下限/上限周波数の設定のしかたとスキャンのスタート/ストップのしかたを説明します。

※0A/0b~9A/9bのことをスキャンメモリーと呼び、他のメモリーと区別します。

※スキャンメモリーは、周波数のほかに、TSおよびモードも記憶します。

■21~28ページの操作説明は、右表の周波数をスキャンメモリーにセットしたときの操作例です。

■後々のために0A/0b~9A/9bすべてにここであげている周波数を記憶させましょう。

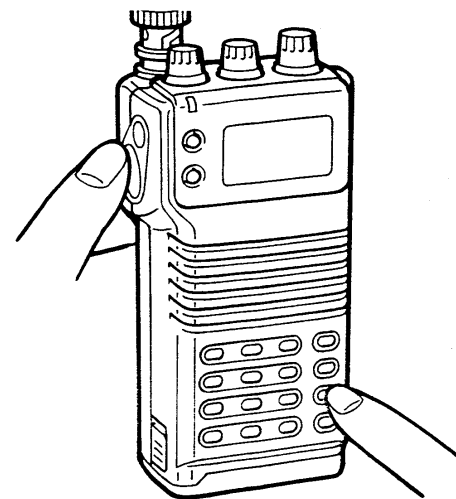
スキャンメモリー-A	スキャンメモリー-b	TS	モード		
0A	0.100	0b	29.000	5	AM
1A	29.000	1b	76.000	5	FM
2A	76.000	2b	108.000	50	WFM
3A	108.000	3b	137.000	25	AM
4A	137.000	4b	170.000	5	FM
5A	170.000	5b	225.000	50	WFM
6A	225.000	6b	430.000	12.5	FM
7A	430.000	7b	440.000	20	FM
8A	903.000	8b	905.000	12.5	FM
9A	950.000	9b	1300.000	10	FM

1. スキャンメモリーを呼び出す。

1. **CL** を押し、VFOモード。
2. **F** を押しながら **▲** を押す。

※ **▲** を押すごとに0A、0b、1A、1b……と切り換わります。

※ **▼** を押すごとに0A、9b、9A、8b……と切り換わります。



※出荷時には0A/0b~9A/9bのすべてのモードのメモリーに144.000/146.000がセットされています。

波数範囲のセット方法)

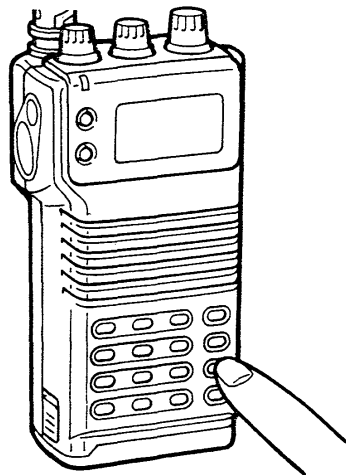
2. 下限周波数をセットする。

1. **▲**を押して**0A**を呼び出す。
2. **0****0****1****0****0****EN**の順で押す。



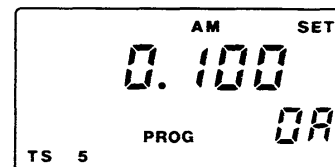
まちがって入力した場合は

1. **CL**か**MR**を押す。
2. **0****0****1****0****0****EN**と押す。



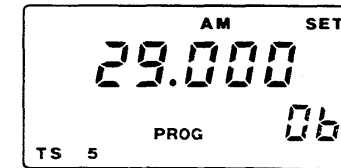
3. TSとモードを選ぶ。

1. **F**を押しながら**2**を押す。
2. 引き続き**F**を押しながらダイヤルで"5"を選ぶ。
3. **F**を押しながら**1**を押し、
4. **AM**を選ぶ。



4. 上限周波数をセットする。

1. **▲**を押して**0b**を呼び出す。
2. **2****9****0****0****0****EN**と押す。



引き続き**1A**、**1b**にセットする場合は

1. **▲**を押して**1A**を呼び出す。
以下、このページ2~4の手順でセットします。

セットが終わった場合、やめる場合は

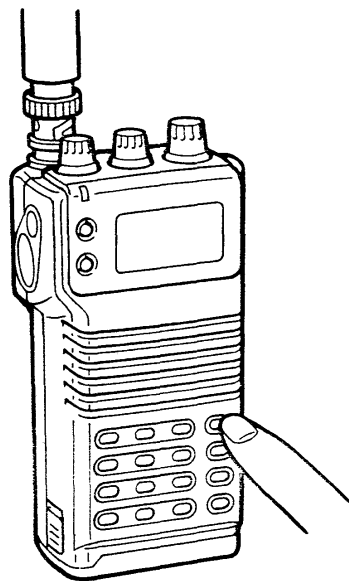
1. **CL**を押す。

※下限・上限周波数のセットは、実際の周波数の上下に関係ありません。どちらにセットしてもかまいません。

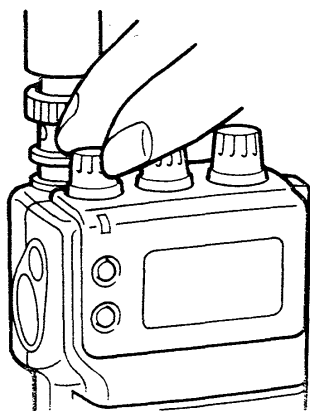
■プログラムスキャンによる選局 その2 (スキャンのスタート)

VFOモードにする。 感度の調整。 スキャンのスタート。

1. **[CL]**を押す。



2. **[SQUELCH]**で感度調整をする。

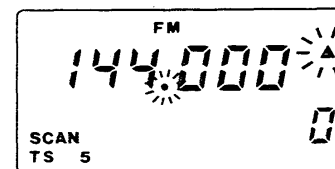
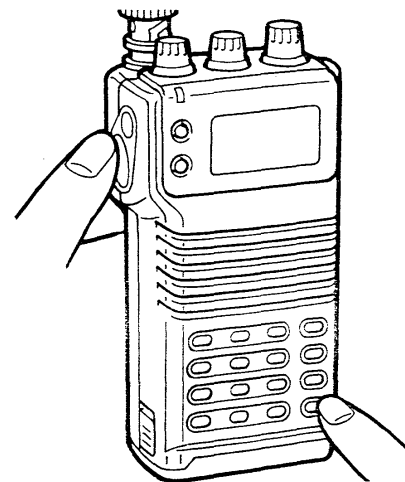


3. **[F]**を押しながら **[▼]**を押す。

※信号を受信すると、その周波数で10秒間受信します。

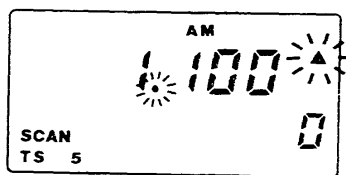
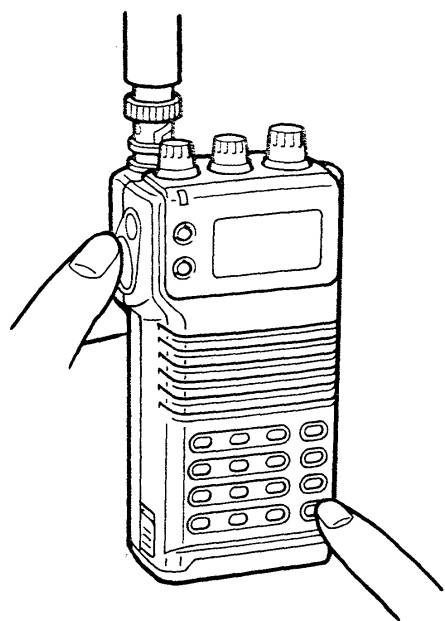
10秒たつと次の信号をとらえるために自動的に周波数を切り換えていきます。

※信号受信中、スキャン動作を停止したままにできます。P54をご覧ください。



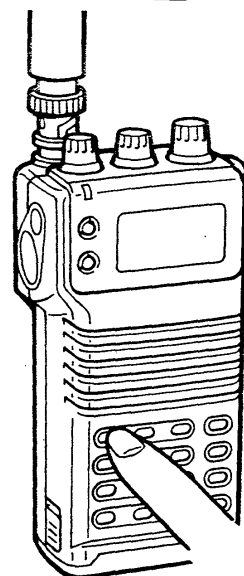
ト/ストップ操作) スキャンメモリーの変更。

1. スキャンをスタートする。
[F]を押しながら▼を押す。



2. 目的のスキャンメモリーのテンキーを押す。

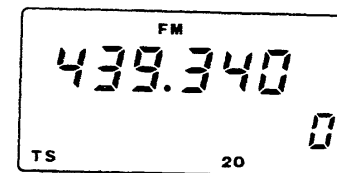
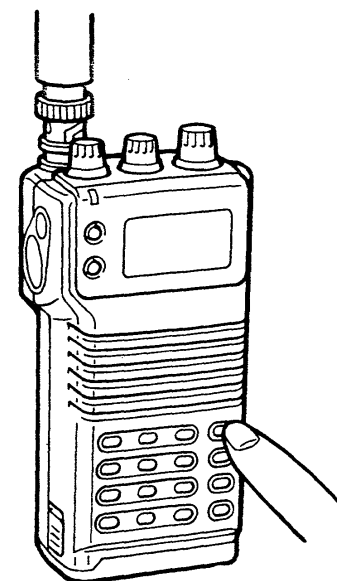
※例えば、0A/0bのグループは0キー、
1A/1bグループは1、
2A/2bグループは2です。



スキャンの停止。

1. [CL]か[MR]を押す。
VFOモードに戻ります。

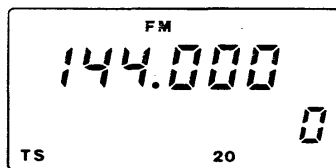
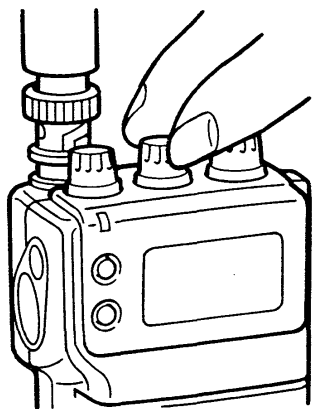
※受信した信号をそのまま続けて聴きたいときにも同じ操作をします。



アマチュア無線の聴きかた(プログラ

1. 電源を入れる。

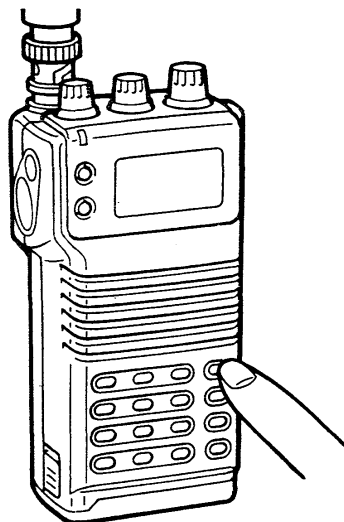
1. **[PWR/VOL]** を右へまわす。




※電源を切るときは、**[PWR/VOL]** をカチッと
いうまで左へまわしきる。

2. VFOモードを選ぶ。

1. **[CL]** を押す。

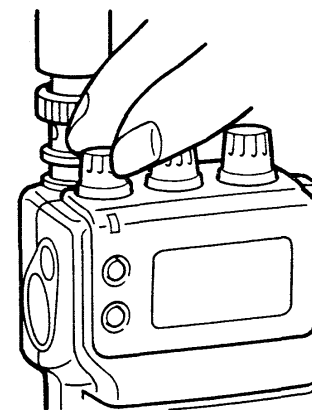


※  表示の消灯を確認します。



3. 感度を調整する。

1. **[SQUELCH]** をまわす。



※ザーというノイズが消えるところまで
まわします。

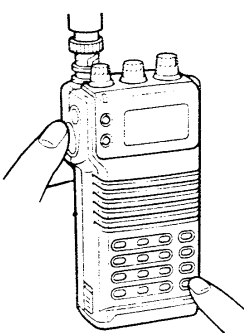


※感度調整をしないとスキャン動作しません。

ムスキャン) 430MHz帯を聴く場合

4. プログラムスキャンをはじめる。

1. **[F]**を押しながら **[▼]**を押す。
2. **[7]**を押す。
(P21の表にしたがって記憶させたとき)



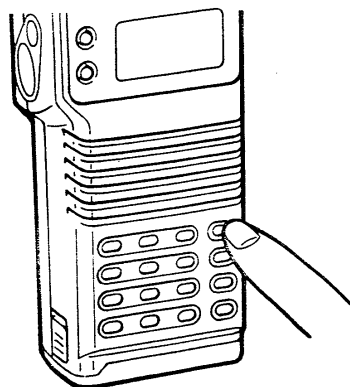
- ①信号をとらえると10秒間受信。
 - ②次の信号をとらえる動作を開始。
- ①、②の動作をくりかえす。



※前もって、スキャンする範囲をセットする必要があります。スキャンのセットのしかたは、P21をご覧ください。

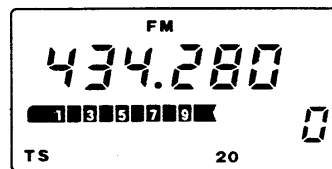
5. プログラムスキャンをとめる。

1. **[CL]**または**[MR]**を押す。



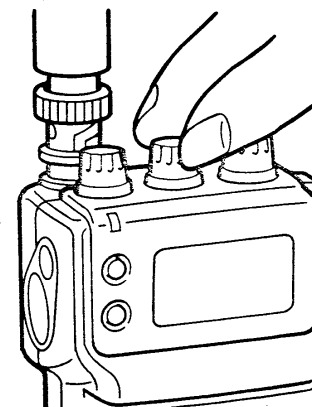
とらえた信号をそのまま聴きたいときは

1. **[CL]**か**[MR]**を押す。



6. 音量を調整する。

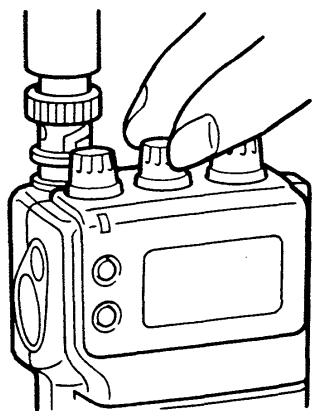
1. **[PWR/VOL]**をまわす。



■ パーソナル無線の聴きかた(プログラ

1. 電源を入れる。

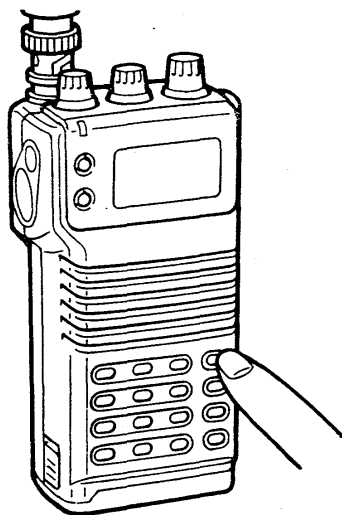
1. **[PWR/VOL]** を右へまわす。




※電源を切るときは、**[PWR/VOL]** をカチッというまで左へまわしきる。

2. VFOモードを選ぶ。

1. **[CL]** を押す。

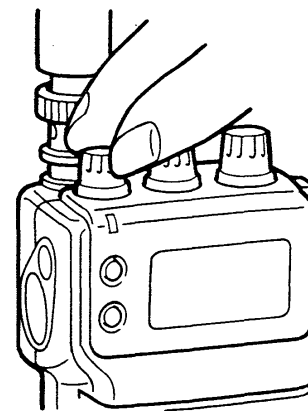


※  表示の消灯を確認します。



3. 感度を調整する。

1. **[SQUELCH]** をまわす。



※ザーというノイズが消えるところまでまわします。

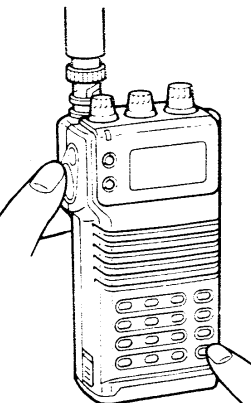


※感度調整をしないとスキャン動作しません。

ムスキャン) 903MHz~905MHzを聴く場合

4. プログラムスキャンをはじめます。

1. **F** を押しながら **▼** を押す。
2. **8** を押す。
(P21の表にしたがって記憶させたとき)



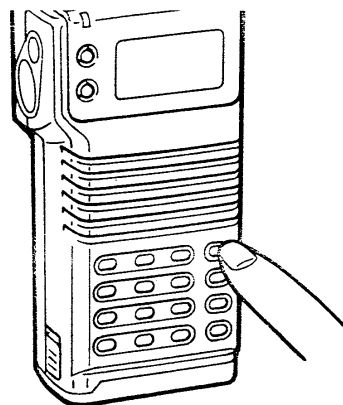
- ①信号をとらえると10秒間受信。
 - ②次の信号をとらえる動作を開始。
- ①、②の動作をくりかえす。



※前もって、スキャンする範囲をセットする必要があります。スキャンのセットのしかたは、P21をご覧ください。

5. プログラムスキャンをとめる。

1. **CL** または **MR** を押す。



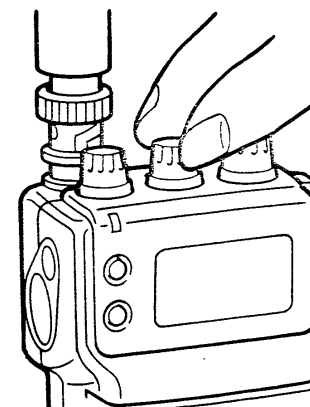
とらえた信号をそのまま聴きたいときは

1. **CL** か **MR** を押す。



6. 音量を調整する。

1. **PWR/VOL** をまわす。



メモリーチャンネルの使いかた

■メモリーチャンネルの呼び出しかた

■メモリーチャンネルには、あらかじめ周波数やモード(電波型式)を記憶させることができます。頻繁に聴く放送局や通信チャンネルの周波数とモードをセットしておくスピーディに選局でき便利です。

■本機のメモリーチャンネル(以下M-CHと略します。)は0~99の100チャンネルをそなえています。

■呼び出しかたを覚えてから、記憶(セット)の方法を覚えてください。

■M-CHの内訳

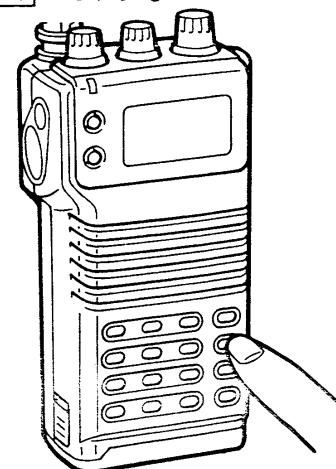
M-CH	初期の内容	主な用途と性質
0	144.000MHz FM	<ul style="list-style-type: none"> ●通常のメモリーとして使用できません。 ●このCHだけマスクはできません。
1~19	144.000MHz FM	<ul style="list-style-type: none"> ●通常のメモリーとして使用できません。
20~79	※マスクされている	<ul style="list-style-type: none"> ●通常のメモリーとして使用できません。 ●プログラムスキップのスキップ指定エリアです。
80~99	※マスクされている	<ul style="list-style-type: none"> ●通常のメモリーとして使用できません。 ●オートメモリーライトスキャン時の周波数書き込みエリアです。

※マスクとは、記憶内容を見かけ上かくしてしまい、ブランク状態にします。M-CHの呼び出し操作を効率良く行うために設けています。

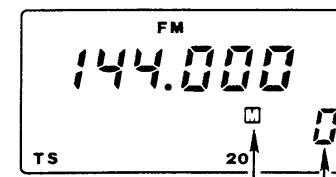
メモリーモードのセットのしかた

メモリーチャンネルを呼び出すには、メモリーモードにセットすることが原則です。その上で、キーボードまたはダイヤルで行います。

1. **MR**を押す。



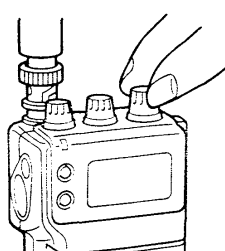
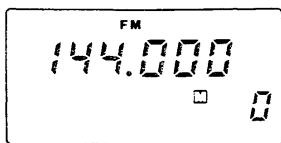


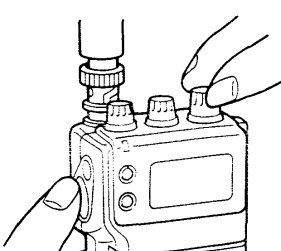


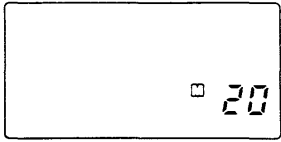
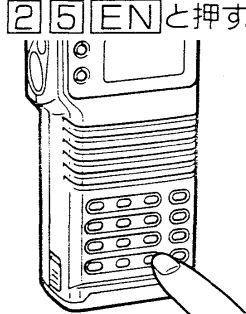



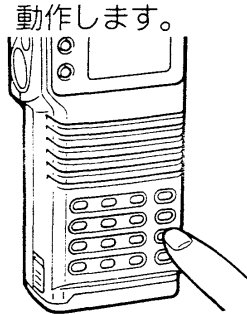



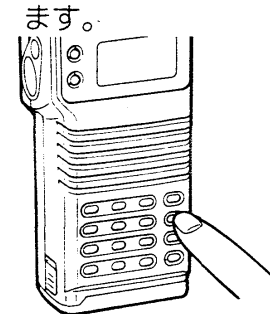







※ **MR**点灯を確認。



点灯 0~99まで表示

■メモリーモード時には5つの方法で呼び出せます。

■VFOモード時は

1.ダイヤル	2. F とダイヤル	3. キーボード	4. ▲・▼キー	5. MR キー	1. ▲・▼キー
<p>1. ダイヤルをまわす。</p>     <p>●マスクされているM-CHは呼び出さない。 ※初期時は、20～99CHにマスクしている。</p>	<p>1. Fを押しながらダイヤルをまわす。</p>     <p>●すべてのM-CHを順次呼び出すことができる。</p>	<p>1. 数字キー+ ENを押す。 ※たとえば25の場合 2 5 ENと押す。</p>     <p>●数字キーを3桁以上押した場合は表示の下位2桁が有効となる。</p>	<p>1. ▲か▼を押す。 ※押し続けると連続動作します。</p>     <p>●マスクされているM-CHは呼び出せない。 ※初期時は、20～99CHにマスクしている。</p>	<p>1. MRを押す。 ※10桁桁がアップします。</p>     <p>●1回押すごとにM-CHを10CH単位でアップさせる。</p>	<p>1. ▲か▼を押す。 ※押し続けると連続動作します。</p>     <p>●VFOモードのまま、希望のM-CHを指定できる。 ●記憶内容を表示させる場合は、メモリーモードにする。</p>

応用操作法

※初期時(出荷時およびリセット操作後)は、M-CHの0～19に144.000MHz FMがセットされます。20～99CHはマスクしています。したがって、上記の1および4の操作では、マスクしたM-CHは呼び出すことができません。

メモリーチャンネルの使いかた

アマチュア無線の周波数ならM-CH0~19、FM放送、TV放送を20~29、その他の周波数なら40~60など記憶する前にルールを作っておくと便利です。また、巻末のメモ欄を利用すると便利です。

■周波数・モードの記憶のしかた M-CHの15に221.750MHzを記憶させる場合

1. 希望のM-CHを呼び出す。 2. 周波数・モードを入力する。 3. M-CHに記憶させる。

1. P30のいずれかの方法で記憶させたいM-CHを呼び出す。

① **MR** を押し、メモリーモードにする。

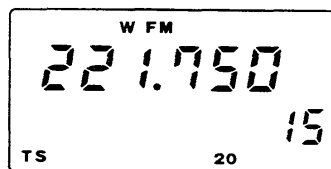
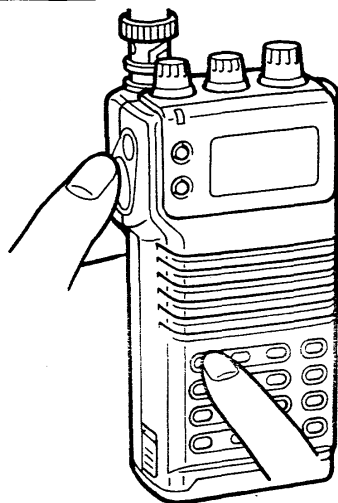


点灯させる

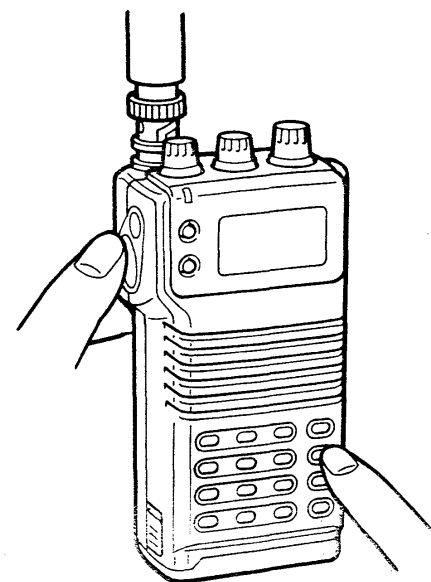
② ダイヤルをまわす。
あるいは **1 5 EN** と押す。



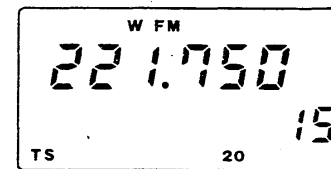
1. **CL** キーを押し、VFOモード。
2. **2 2 1 . 7 5 0 EN** と押す。
3. **F** を押しながら **1** を押し、**WFM** を選ぶ。



1. **F** を押しながら **MR** を1~2秒間押す。



※“ピッピピ”とビーブ音が鳴れば
セット完了です。

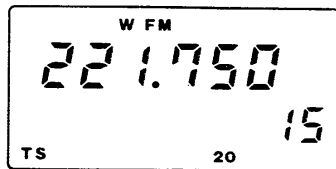
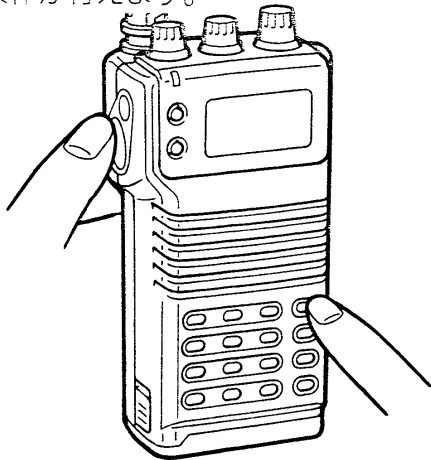


■VFOへの移しかた

メモリー周波数の周辺を受信したいときに便利です。

- 1.メモリーモードにセット。
- 2.希望のM-CHを呼び出す。
3. **F** を押しながらか
CL を1~2秒間押す。

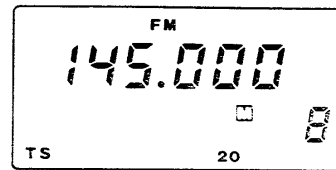
※ **M** 消灯。VFOモードになり、いろいろな選局操作が行えます。



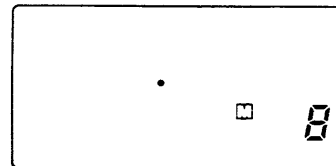
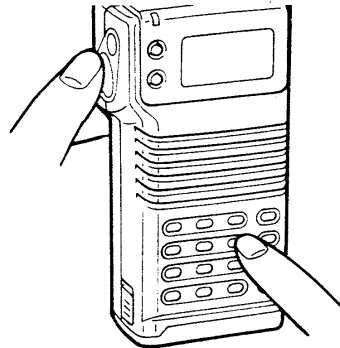
■メモリーマスクのしかた

メモリーマスクを行うと表示周波数が消えます。マスクを解除するとマスク前のメモリー状態が表示されます。マスクしたチャンネルはスキャンしません。また、マスクチャンネルを呼び出すための操作も限定されます。

- 1.メモリーモードにセット。
- 2.マスクしたいM-CHを呼び出す。(P30参照)

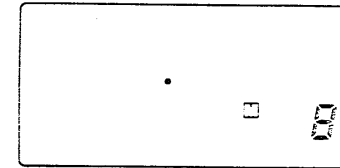


3. **F** を押しながらか
6 を押す。

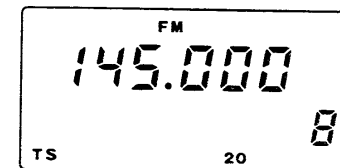
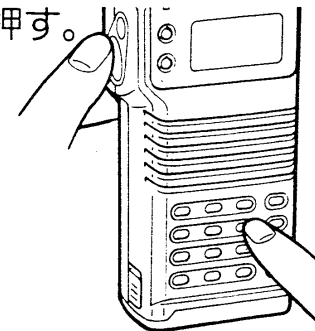


マスクを解きたい場合

- 1.メモリーモードにセット。
- 2.解除したいM-CHを呼び出す。



3. **F** を押しながらか
6 を押す。



スキヤンのしかた

■スキヤンの種類としくみ

■スキヤンとは、周波数あるいはM-CHを自動的に切り換えて、信号のでてるところを探し出す機能です。

■P21～P24で説明したプログラムスキヤンとM-CHを切り換えて行うメモリースキヤンの2つのグループに分けられます。

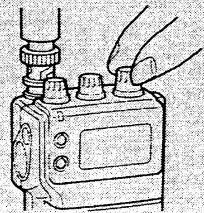
■本機は、7種類のスキヤン機能をそなえ、受信目的に応じて選べるようになっています。

■スキヤン中のダイヤルのはたらき

●スキヤン中にダイヤルをまわすと、そのまわした方向で、アップスキヤンとダウンスキヤンが切り換えられます。

●信号受信で停止しているときにダイヤルをまわすと、再スタートします。

※この機能はすべてのスキヤンに有効です。

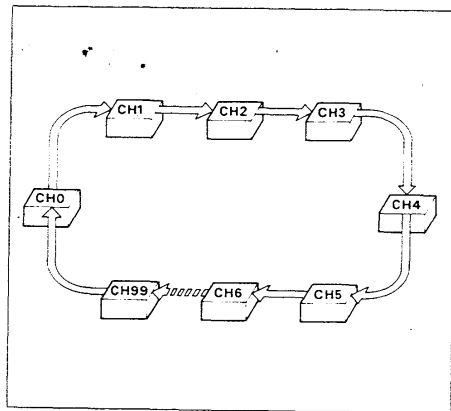


スキヤンの種類	しくみ	動作
メモリースキヤン (P34)	周波数を記憶しているすべてのM-CHをスキヤンします。	1. スタートして、信号受信で約10秒間M-CHが周波数に停止します。そして再スタートします。
セレクトメモリースキヤン (P35)	必要のないM-CHをスキップしてメモリースキヤンします。	
モードセレクトスキヤン (P36)	指定したモード(電波型式)を記憶しているM-CHをスキヤンします。	2. 1秒間にM-CHあるいは周波数を20ステップでスキヤンします。
プログラムスキヤン (P21～P24)	あらかじめ指定した周波数範囲をスキヤンします。	※1、2は出荷時の設定です。セットモードで変更が可能です。P52、P54をご覧ください。
プログラムスキップスキヤン (P37)	必要のない周波数をスキップしてプログラムスキヤンします。	
オートメモリーライトスキヤン (P38)	プログラムスキヤン時に、信号を受信した周波数を自動的にM-CHに記憶します。	
プライオリティスキヤン (P39～P40)	VFOの周波数とM-CHを交互に受信します。また、VFO周波数を受信しながら、M-CHをスキヤンして信号を探し出せます。	

■メモリースキヤンのしかた

■M-CHを順次に切り換えて信号のでている周波数を探し出します。

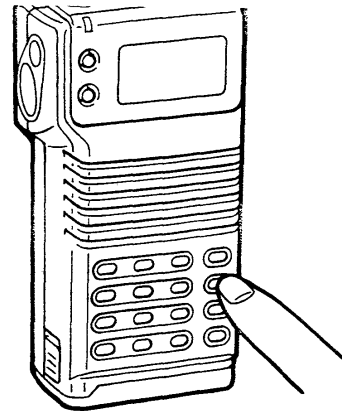
■0～99CHの範囲で周波数の記憶されているすべてのM-CHをスキヤンします。



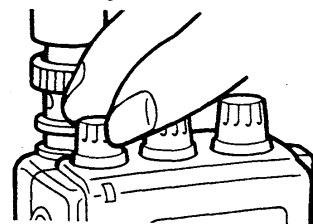
※セットモードでM-CHの範囲を限定することができます。P52～P53をご覧ください。

1. メモリーモードにする。

1. **MR** を押し、メモリーモード。



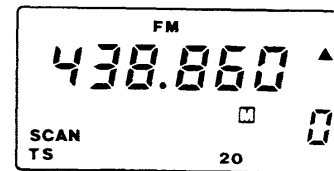
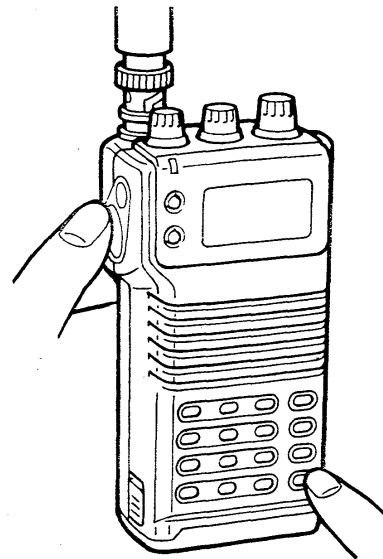
2. **SQUELCH** をまわす。



※感度調整を行わないとスキヤン動作が確実に行われません。

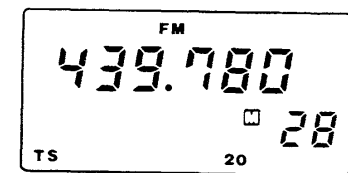
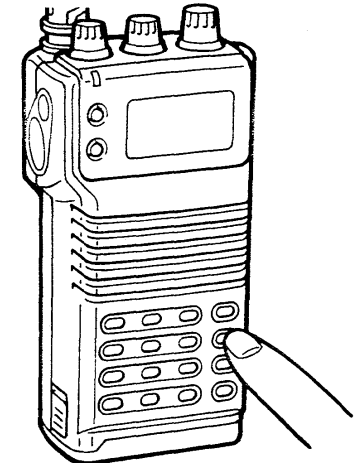
2. スタート。

1. **F** を押しながら **▼** を押す。



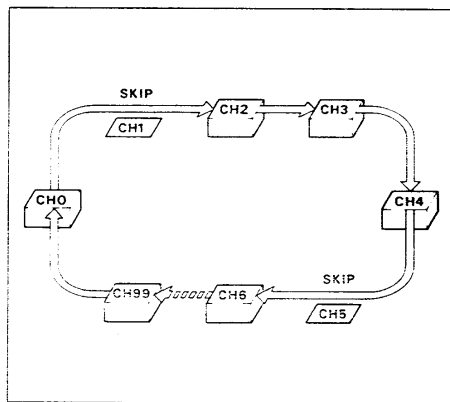
3. 停止

1. **MR** を押し。
メモリーモードで停止します。
CL を押し。
VFOモードで停止します。



■セレクトメモリスキャンのしかた

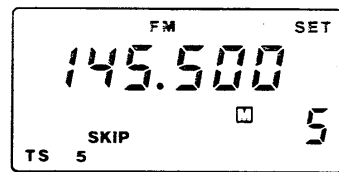
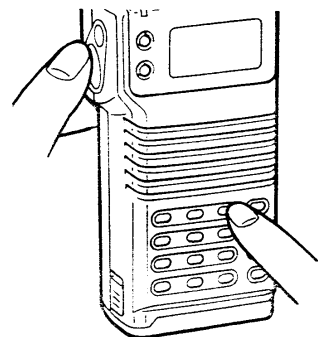
■メモリスキャンで、スキップする必要のないM-CHに“SKIP”指定を行うことで、メモリスキャンを効率よく利用することができます。



※スキンのスタート前に[SQUELCH]で感度調整をしてください。

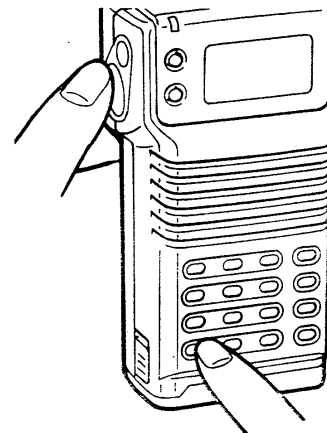
1. スキップの指定。 2. スタート・停止。

1. **[MR]**を押してメモリーモード。
2. スキップしたいM-CHを呼び出す。
3. **[F]**を押しながら**[3]**を押す。



※M-CHの呼び出しはP30をご覧ください。

1. **[MR]**を押してメモリーモード。
2. **[F]**を押しながら**[.]**を押す。



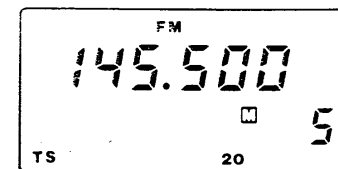
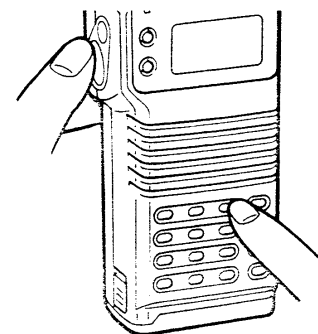
停止操作は……………

1. **[MR]**か**[CL]**を押す。メモリスキャン時と同じです。

※**[F]**を押しながら**[▽]**を押す“メモリスキャン”時には、SKIP指定したM-CHもスキャンします。

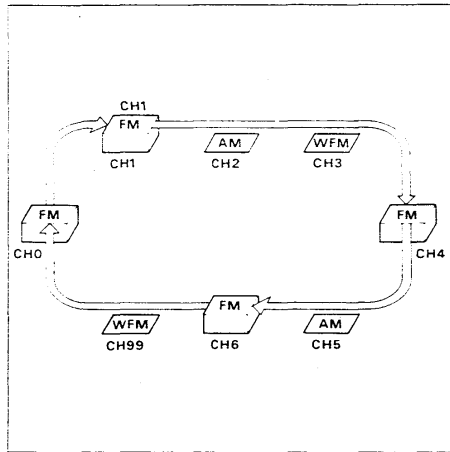
3. 指定の取り消し。

1. **[MR]**を押してメモリーモード。
2. スキップを解除したいM-CHを呼び出す。
3. **[F]**を押しながら**[3]**を押す。



■モードセレクトスキヤンのしかた

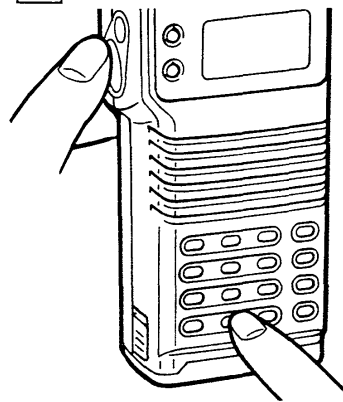
■同じモード(電波型式)を記憶しているM-CHだけをスキヤンします。



※スキヤンのスタートの前に[SQUELCH]で感度調整をしてください。

1. スタート。

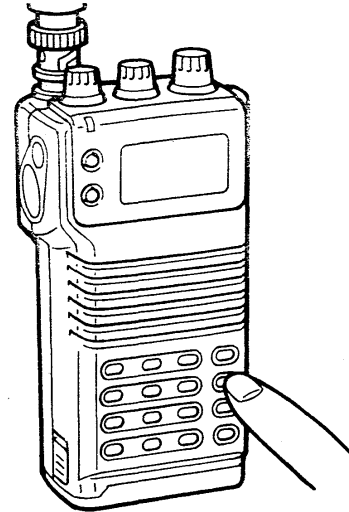
1. **MR**を押してメモリーモード。
2. スキヤンしたいモード(電波型式)をセットするか、スキヤンしたい電波型式を記憶したM-CHを呼び出す。
3. **F**を押しながら、**1**を押す。



※同一モードが記憶されているM-CHが2つ以上ないとスキヤンはスタートしません。

2. 停止。

1. **MR**か**CL**を押す。

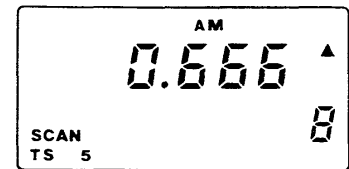


MRでメモリーモード、**CL**でVFOモードで停止。

3. モードの変更。

1. スキヤン中に**F**を押しながら**1**を押す。

※モードが切り換わり、そのモードでメモリースキヤンが行われます。



■プログラムスキップスキヤンのしかた

■プログラムスキヤン動作中に、スキップ登録操作をすると、次のスキヤンから、その周波数はスキヤンから除かれます。

■登録操作によって、その周波数はM-CHの79～20CHに順番に記憶されます。

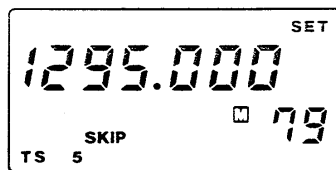
プログラムスキヤンの詳しい内容はP21～P24をご覧ください。

※スキヤンのスタート前に[SQUELCH]で感度調整をしてください。

1. スキップの登録。 2. スタート・停止。 3. 登録の取り消し。

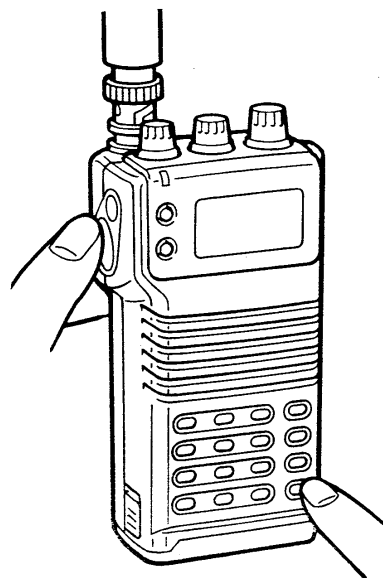
1. プログラムスキヤンをスタートさせる。
2. 登録したい周波数でスキヤンが停止したら[F]を押しながら[MR]を1～2秒間押す。

※指定完了後、自動的にスキヤンがスタートします。



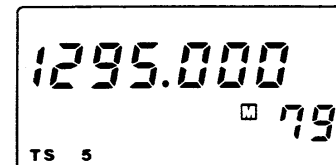
※79CH～20CHの60CH以上は指定はできません。61CH目になると“ブツ”音が鳴ります。

1. [F]を押しながら[▼]を押す。
スタートします。

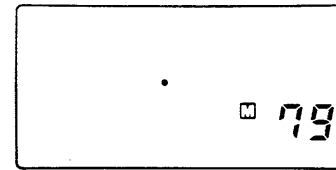


- 停止するときは、
1. [CL]か[MR]を押す。

1. 取り消したいM-CHを呼び出す。
2. [MR]を押してメモリーモード。
3. [F]を押しながら[3]を押し、[SKIP]表示を消す。



あるいは、
[F]を押しながら
[6]を押し、マスクCHにする。



■オートメモリーライトスキヤンのしかた

■スキヤン中に受信した周波数を忘れないように自動的にM-CHへ記憶していくスキヤンです。

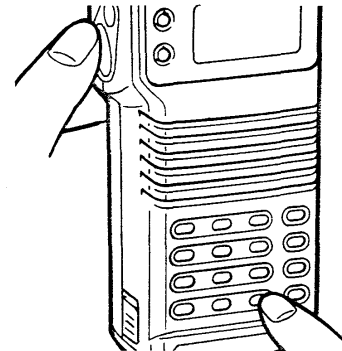
■信号を受信してスキヤンが停止するごとに、その周波数をM-CHの80~99CHまで記憶されます。99CHまで記憶すると、スキヤンが解除されます。

■再度、オートメモリーライトスキヤンを行うと、前回記憶した内容はすべてマスクされ、新しい周波数が記憶されます。

※スキヤンのスタート前に[SQUELCH]で感度調整をしてください。

1. スタート

1. **[CL]** を押してVFOモード。
2. **[F]** を押しながら**[EN]** を押す。



3. **[0]~[9]** を押して周波数帯を選ぶ。



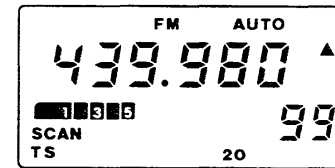
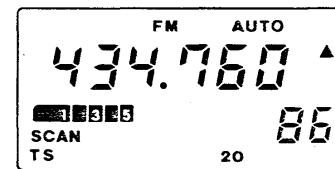
スタートチャンネル

※この周波数帯は、プログラムスキヤン用にセットした周波数帯です。

※プログラムスキヤンの詳しい内容はP21~P24をご覧ください。

2. 記憶動作。

信号を受信すると自動的にその周波数を記憶します。



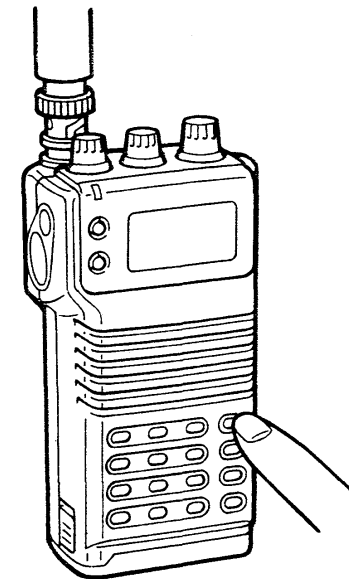
※このスキヤンで記憶された周波数は、前記、プログラムスキップスキヤンを行ったとき、その周波数がスキップされます。

3. 停止。

99CHまで記憶すると自動的に停止します。

途中で止める場合は……

1. **[CL]** か **[MR]** を押す。



※スキヤン完了後、80~99CHを呼び出すことで、メモリーされた周波数の確認ができます。

■プライオリティスキヤンのしかた

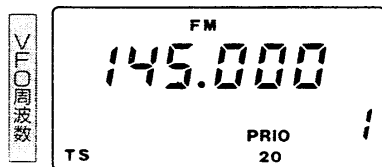
〈VFOと指定M-CHのスキヤン〉

1. 周波数のセット。 2. スタート。

■VFO周波数を聴きながら、M-CHの周波数に信号がでてくるか確認できるスキヤンです。VFOとM-CH、VFOとM-CH順次スキヤンの2種類があります。

■VFOと指定M-CHのスキヤン

- 5秒受信

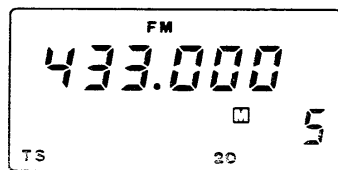


瞬時受信。信号を確認すると15秒受信。信号が途切れると2秒後再スタート。

1. VFO周波数のセット。



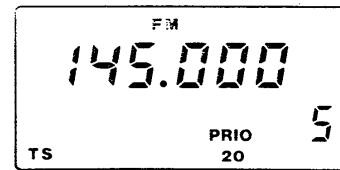
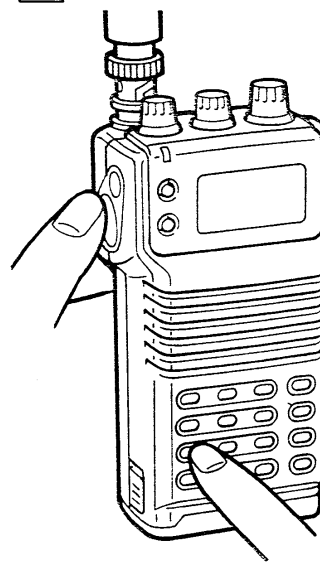
2. 指定M-CHのセット。



※スキヤンのスタート前に[SQUELCH]で感度調整をしてください。

※M-CHの設定、呼び出ししかたはP30をご覧ください。

1. [F]を押しながら[7]を押す。



※指定のM-CHがマスクされている場合、スキヤンはスタートしません。

3. 停止。

VFO周波数受信時は、

1. [CL]を押すか、[F]を押しながら[7]を押す。

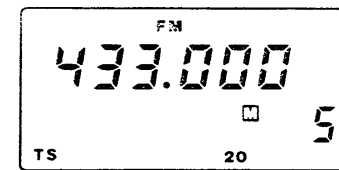
※VFOモードに戻る。



あるいは

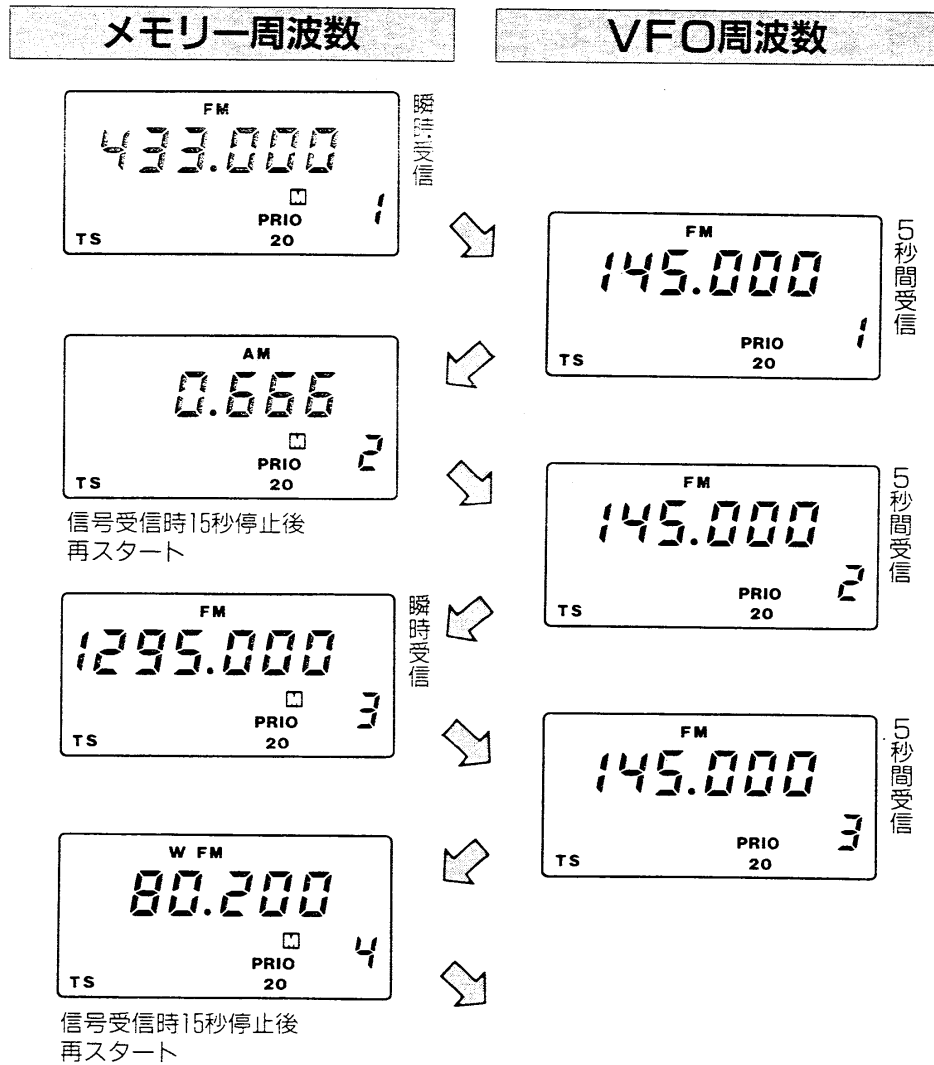
- [MR]を押す。

※メモリーモードに戻る。



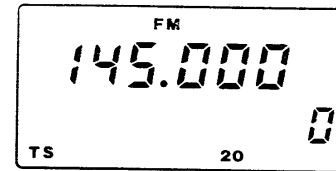
※M-CHに移っているときは、上記のいずれかでVFOに戻り、プライオリティは継続されますので、VFO周波数受信時に停止操作をします。

〈VFOとM-CH順次スキヤン〉



1. 準備操作。

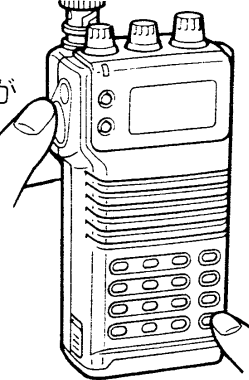
1. VFO周波数のセット。



2. **MR**を押してメモリーモード。

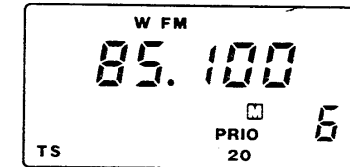
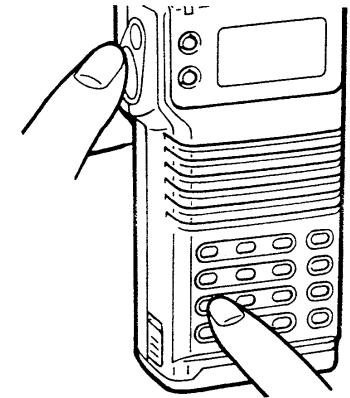
3. **F**を押しながら **▼**を押す。

※メモリースキヤンがスタートします。



2. スタート・停止。

4. **F**を押しながら **7**を押す。



停止操作は..... P39の3の操作と同じです。

※プライオリティスキヤン時、マスクされたM-CHはスキヤンしません。“SKIP”指定のM-CHはスキヤンします。

※メモリースキヤンの他に、セレクトメモリーまたはモードセレクトスキヤンをスタートさせて行うこともできます。

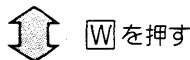
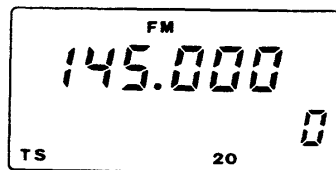
時計モードの使いかた

■時計モードでは

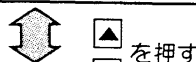
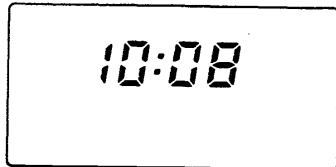
1. 時刻を表示
 2. 希望の時刻にONする
パワーオンタイマー
 3. 一定時間後にOFFする
スリープタイマー
- をセットすることができます。
- 時計は24時制でセットできます。

※時計誤差：1週間で±約1分間

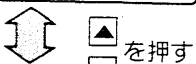
●VFOモード



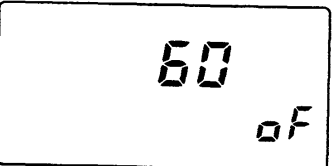
●現在時刻



●パワーオンタイマー

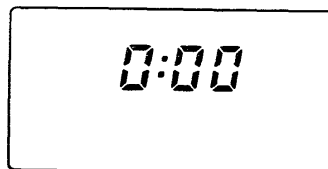
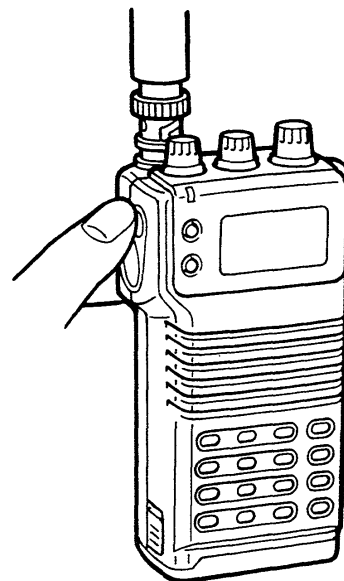


●スリープタイマー

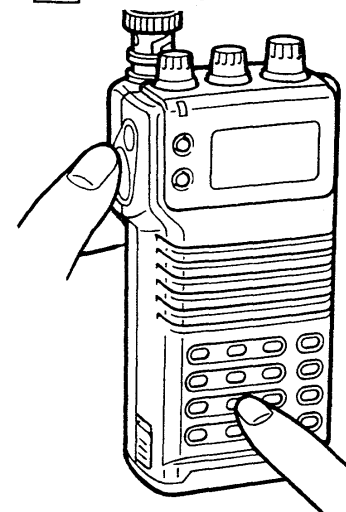


■現在時刻の合わせかた 例：20時30分に合わせる場合

1. [W] を押す。



1. [F] を押しながら [8] を押す。

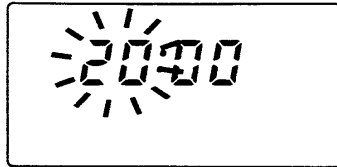
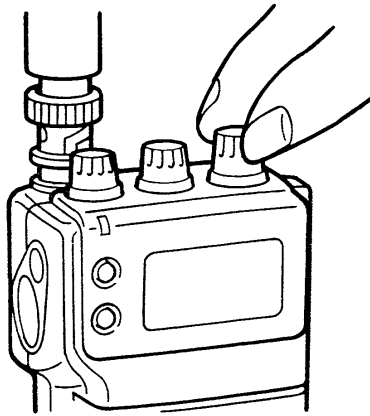


“時間”表示が点滅。

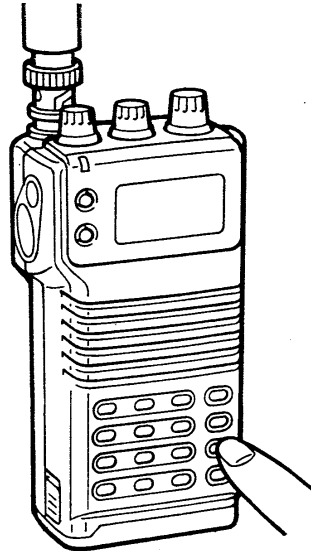


※現在時刻を基準として各タイマーがはたらきます。
正確な時刻をセットしてください。

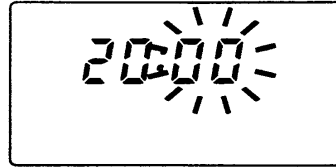
2. **ダイヤル**をまわして
20をセット。



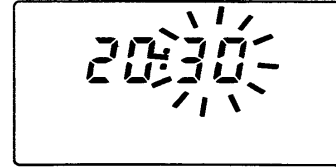
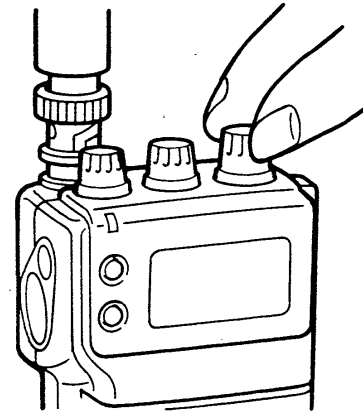
3. **▲**を押す。



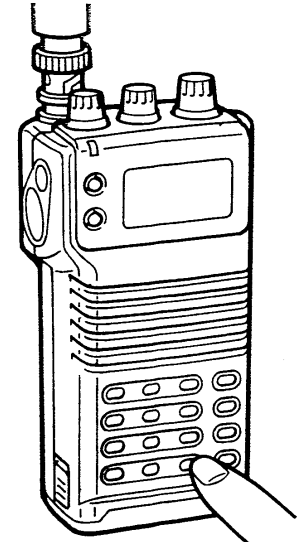
“分”表示が点滅。



4. **ダイヤル**をまわして
30をセット。



5. **EN**を押す。



点滅が消えセット完了。



※タイマーセットへ進むとき**▲**、
受信運用状態に戻るとき**W**を押す。

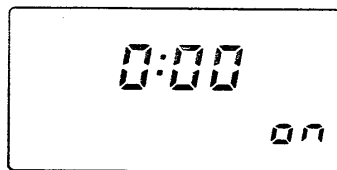
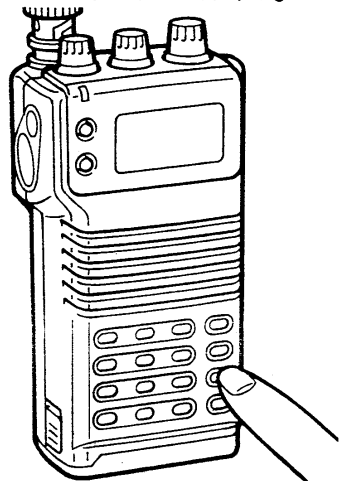
応
用
操
作
法

■パワーオンタイマーの使いかた

例:7時30分に受信をはじめめる場合

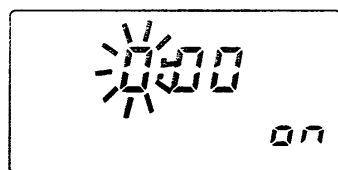
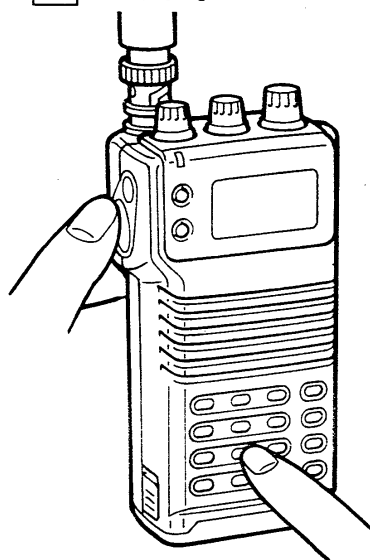
1. **[W]** を押し時計モード。
2. **[▲]** を押す。

“ON”表示を確認。

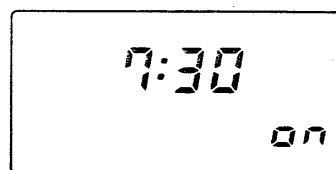
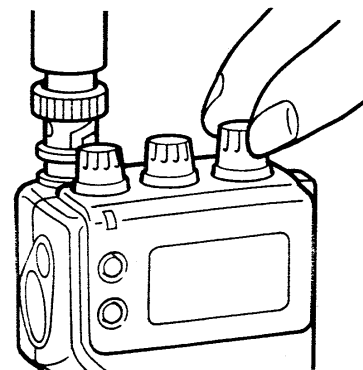


※パワーオンしたときに、聴きたい周波数、モードをあらかじめセットしておきます。

3. **[F]** を押しながら **[8]** を押す。



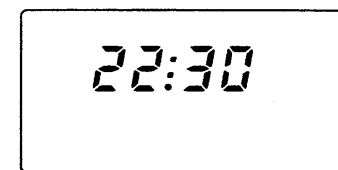
4. **[ダイヤル]** で時間をセット。
5. **[▲]** を押す。
6. **[ダイヤル]** で分をセット。
7. **[EN]** を押す。



※“時、分”セットのしかたは、現在時刻の合わせかたと同じです。

8. **[F]** を押しながら **[4]** を押す。

※“現在時刻”表示に変わります。



9. タイマー時刻になるとビープ音が5回鳴り、電源ONの状態になります。

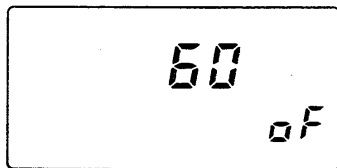


※電源スイッチをOFFするとパワーオンタイマーは解除されます。

■スリープタイマーの使いかた

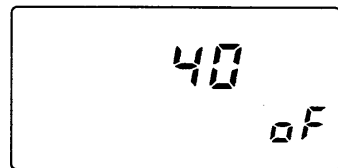
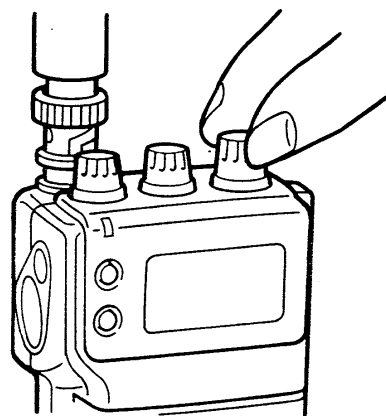
例:40分後にOFFにする場合

1. **[W]**を押す。
2. **[▲]**または**[▼]**でスリープタイマー表示を点灯させます。
“**oF**”点灯を確認。



■スリープタイマーは、60分後、40分後、20分後の3つから時間が選べます。

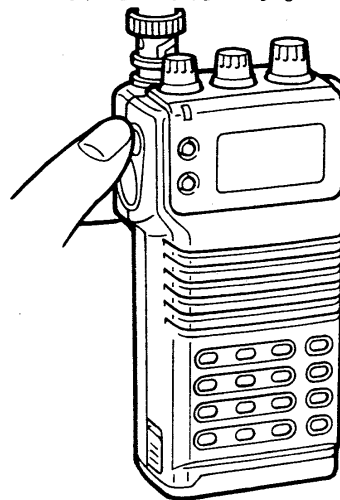
3. **[ダイヤル]**で**[40]**をセット。



※この状態で**[F]**を押しながら**[5]**を押すとタイマースタート。

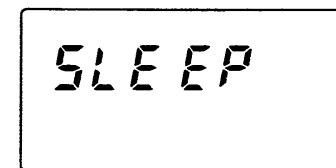
4. **[W]**を押す。

※40分を記憶して運用状態に戻ります。

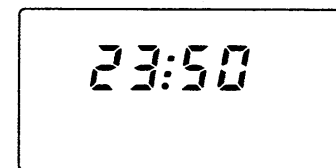


必要なときに**[F]**を押しながら**[5]**を押す。

※2秒間“**SLEEP**”表示



※40分後パワーオフして現在時刻表示にかわります。



※**[W]**を押すと受信運用状態に戻ります。

パワーオンタイマーとスリープタイマーを併用することができます。例えば現在時刻12:00にスリープタイマーが動作し、13:00にパワーオンタイマーの働きで、再度、電源ON状態にすることなどができます。

便利な機能の使いかた

■周波数ロック機能

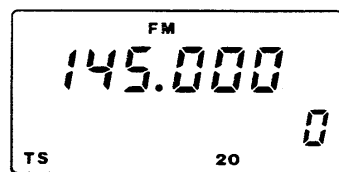
■長時間、同じ周波数を聴くときなど、不注意で周波数が変わることをふせぎます。

■本機をより効率よくお使いいただくための機能です。よくお読みになって活用してください。

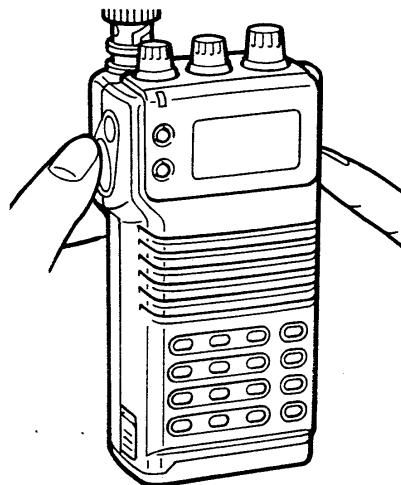
周波数ロック機能
ディスプレイコントラストモニター機能
照明機能
減電圧表示機能
パワーセーブ機能
ビープ機能

■もしものときの
リセット操作のしかた
リチウム電池の充電

1. 聴きたい周波数、
あるいはM-CHを
セット。



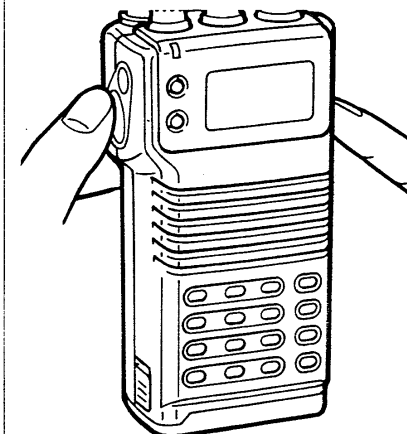
2. [F]を押しながら
[LIGHT]を押す。



※ [L]点灯。



解除するときは……
[F]を押しながら
[LIGHT]を押す。



※ [L]消灯。



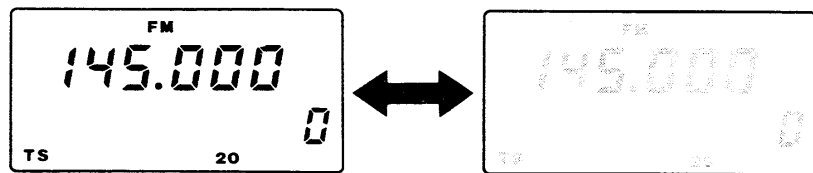
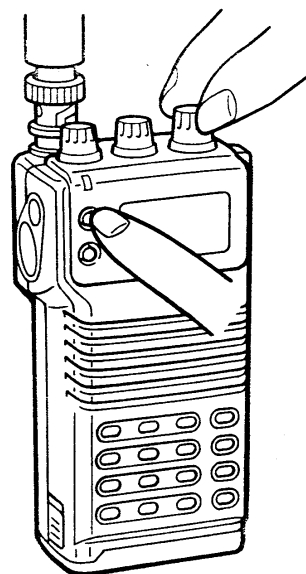
※ [VOL]、[SQUELCH]の操作以外はできません。

■ディスプレイコントラスト

■ディスプレイ表示の明るさを変えることができます。
周囲の明るさに合わせて調整してください。

1. **CONT** を押しながらダイヤルをまわす。

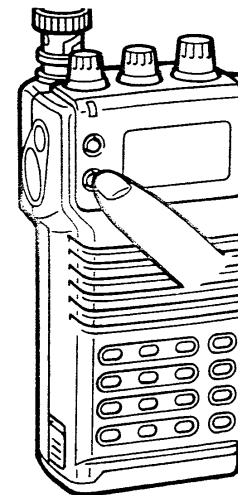
※ 4段階で切り換えができます。



■モニター機能

■弱い信号を受信したときや雑音まじりの信号を受信したときに**MONI**スイッチを押すと聴きやすくなります。

1. **MONI** を押し続ける。

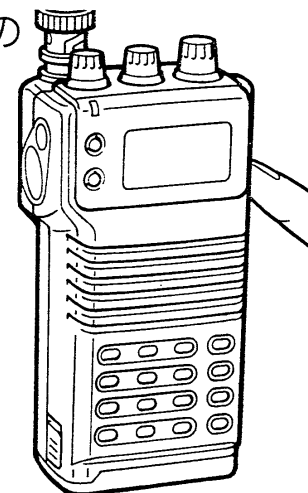


■照明機能

■夜間など暗い場所でディスプレイの表示を見やすくする照明機能です。

1. **LIGHT** を押す。

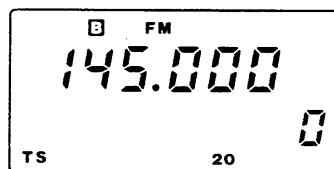
点灯5秒後自動的に消灯します。



※セットモードの変更で押すごとに点灯/消灯が可能になります。
(P54参照)

■減電圧表示機能

- 内蔵のNiCd電池やオプションのバッテリーパックの電源の電圧低下を知らせます。



■が点灯。

※早めに充電してください。

■パワーセーブ機能

- 本機には、できるだけ電池の消耗を少なくするために、受信待ち受け(信号を受信していないとき)が一定時間続きますと、自動的にパワーセーブ機能がはたらきます。

■SETモードで時間比の設定ができます。(P56参照)

- 1:4の場合 待ち受けが125ms続くと以後500msパワーセーブがはたらきます。
- 1:16の場合 待ち受けが125ms続くと以後約2秒間パワーセーブがはたらきます。
※パワーセーブ中は受信しません。

初期時は1:4にセットされています。

■ビープ機能

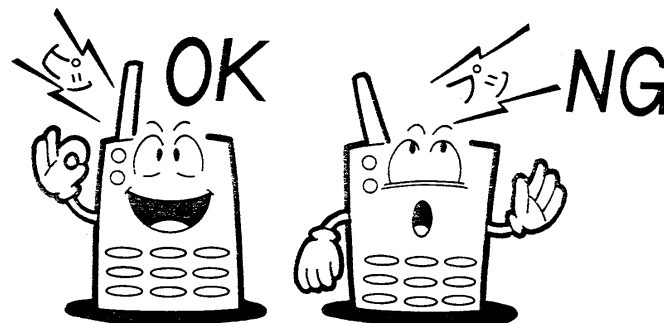
- 本機は、操作が確実に行われたかどうかを、ビープ音で知らせています。

■ビープ音の種類は次のようなものがあります。

- 正しく操作が行われたとき “ピッ”
- [EN]キーが正しく押されたとき “ピー”
- 記憶させる動作が確実に行われたとき “ピッピピ”
- その操作が誤りまたは無効のとき “プッ”

■SETモードでビープ音をOFFにすることができます。(P55参照)

■ビープ音の音量は、受信音の音量調整に比例します。

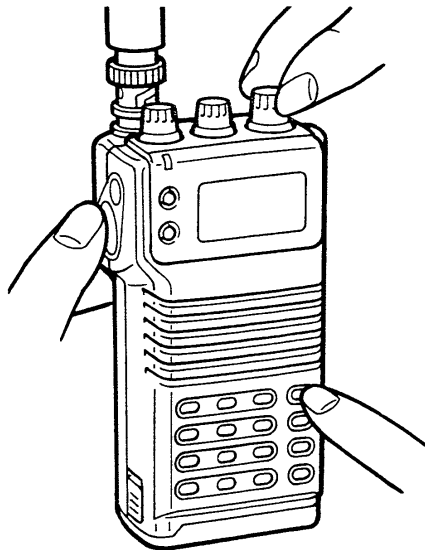


■リセット操作

本機を運用中、ディスプレイの表示内容がおかしくなった場合は、CPUの誤動作、静電気などの外部要因が考えられます。このようなときは、いったん電源を切り、数秒後に入れなおしてください。それでも異常があれば、次のようにリセット操作を行ってください。

リセットのしかた

1. 電源をOFF。
2. **F**と**CL**を押しながら **PWR/VOL**をまわす。



■リセット後の内容

- メモリーの内容
0~19CH : 144.000MHz
20~99CH : マスクされる
- SETモードの内容
すべて初期設定値に戻る。
(P49~P56)
- プログラムスキンの周波数帯
Aメモリー(0A~9A)
144.000MHz FM
Bメモリー(0b~9b)
146.000MHz FM
- 時計、パワーオンタイマー
共に0:00
- スリープタイマー 60分

■リチウム電池の充電

内蔵のNiCd電池が完全に放電された状態で、約1週間以上、電源を供給しないで放置しておきますと、電源スイッチを入れても何も表示されません。また、M-CHに記憶させた内容も消えてしまいます。これは、本機に内蔵されているマイクロコンピュータのバックアップ用リチウム電池が、完全に放電されてしまったために起る現象です。

- このリチウム電池は、通常、内蔵のNiCd電池またはバッテリーパックおよび外部電源から、自動的に充電されています。

電源を入れても何も表示しなかったら

- (1) 通常の充電操作を行ってください。
1時間以上充電を行うことによって、リチウム電池が復旧します。
(内蔵のNiCd電池は約15時間充電が必要です。)
- (2) 約1時間充電したのち、(リセット操作)で電源を入れてください。

セットモードの使いかた

■セットモードとは

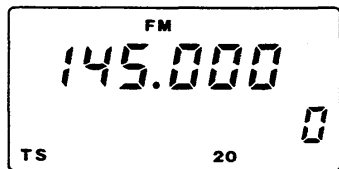
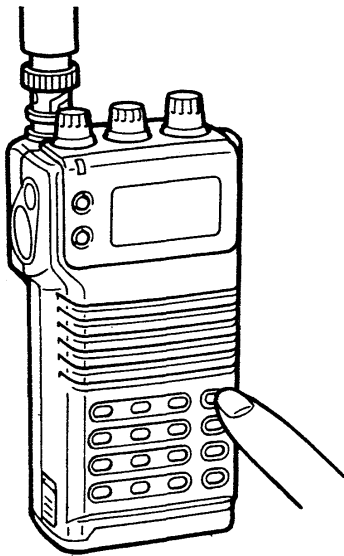
セットモードは、初期設定されている運用条件を変更するためのもので、お好みに応じてセットしてください。セットモードで変更できる内容は、おもにスキヤンの運用条件、および電池の消耗をできるだけ少なくするための運用方法などがあります。

■セットモードの設定項目

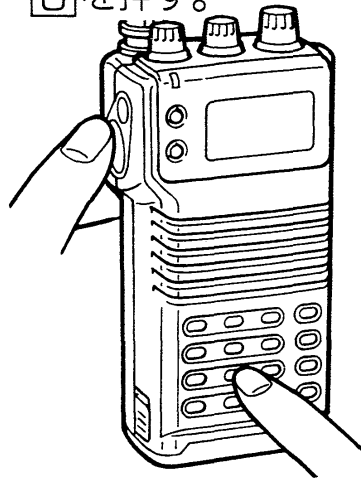
項 目	内 容	ページ	項 目	内 容	ページ
スキヤン スピード	<i>SP</i> スキヤン動作のスピード設 定	52	ディスプレイ ランプ	<i>L1</i> 自動消灯のOFF	54
メモリー スキヤン範囲A	<i>PA</i> メモリースキヤン時の M-CHの範囲設定A	52	ビープ音	<i>bE</i> ビープ音のON/OFF	55
メモリー スキヤン範囲B	<i>Pb</i> メモリースキヤン時の M-CHの範囲設定B	53	RX(受信) ランプ	<i>bL</i> 信号受信時の点灯 ON/OFF	55
プログラムスキ ップスキヤン	<i>SC</i> プログラムスキップ スキヤンのON/OFF	53	パワーセーブ 機能	<i>PS</i> パワーセーブ機能の時間比 設定	56
スキヤン 一時停止	<i>SC</i> 再スタートの条件の設定	54	パワーセーブ スキヤン	<i>SS</i> スキヤン中のパワーセーブ 機能のON/OFF	56

■セットモードのしかた

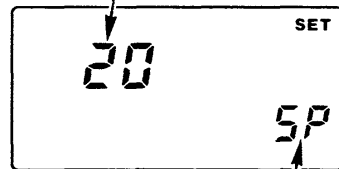
1. **CL** を押してVFOモード。



2. **F** を押しながら **8** を押す。

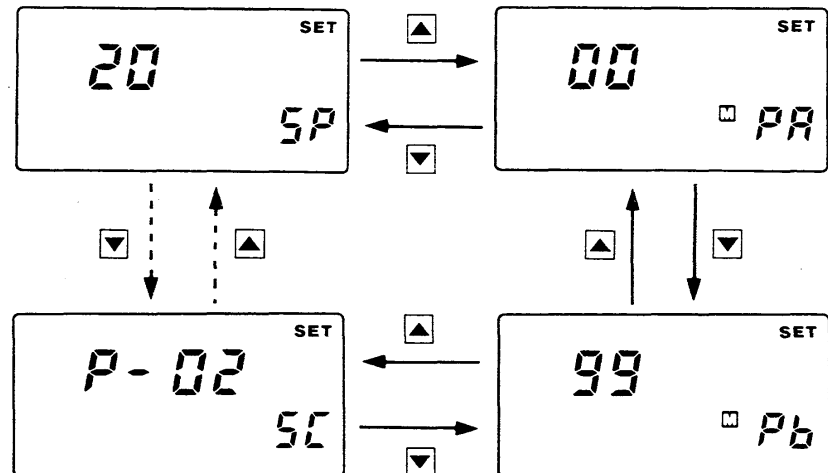
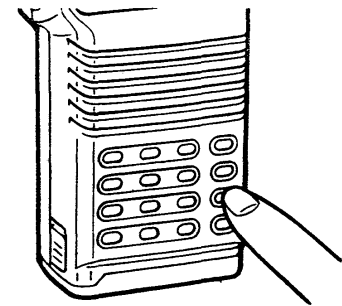


この条件が変更できます。



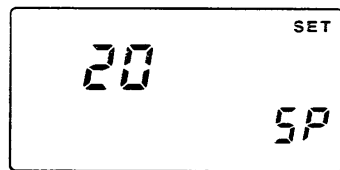
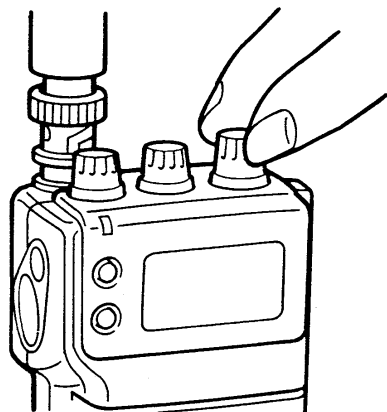
■項目の呼び出ししかた

1. **▲** か **▼** を押す。

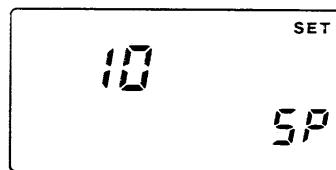
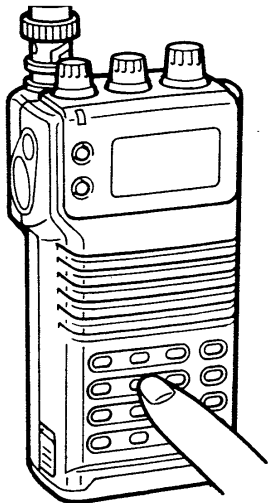


■条件の変更のしかた

1. **ダイヤル**まわします。

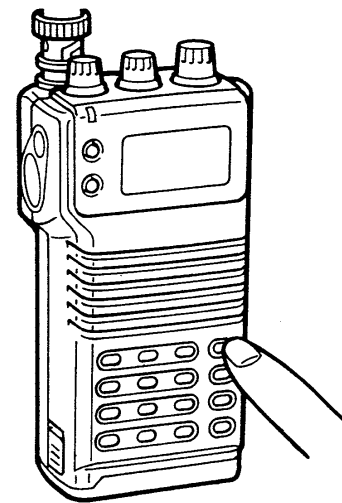


2. メモリスキャン範囲
A・Bの設定は**数字**
キーでも可能です。



■VFOモードに戻す

1. **CL**を押す。
VFOモードに戻りま
す。

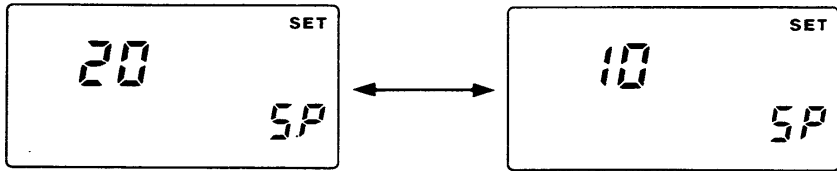
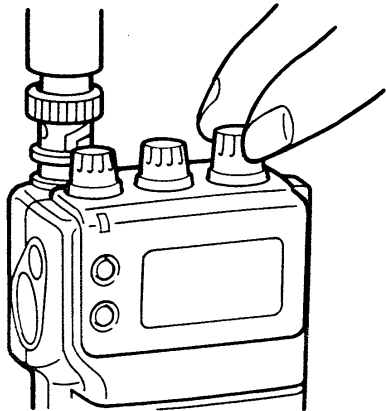


■各項目別の変更のしかたと内容

■スキャンスピード

- スキャンの動作する速さを切り換えます。
“10”にセットするとスキャンが遅くなります。
- すべてのスキャンに共通します。(プライオリティは除く)

ダイヤルで
セットします。

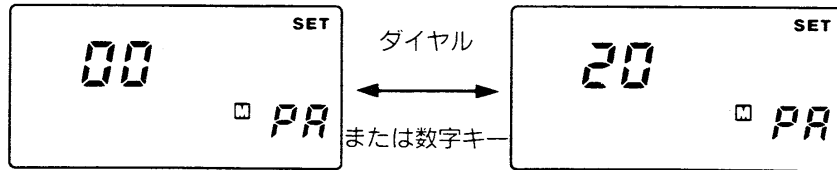
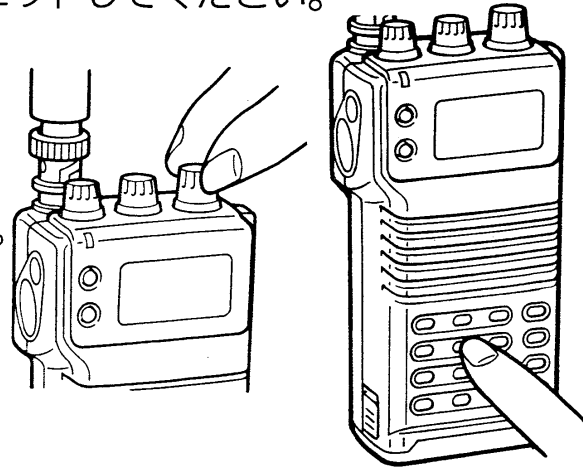


※左側の表示が初期設定です。

■メモリスキャン範囲A

- メモリスキャン(メモリーモードで行うスキャンのすべてを含む)の範囲を限定することができます。
次項、メモリスキャン範囲Bと共に、下限、上限のM-CHをセットしてください。

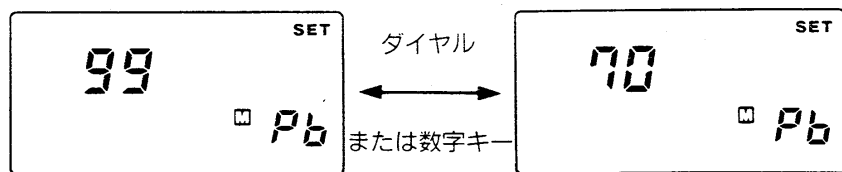
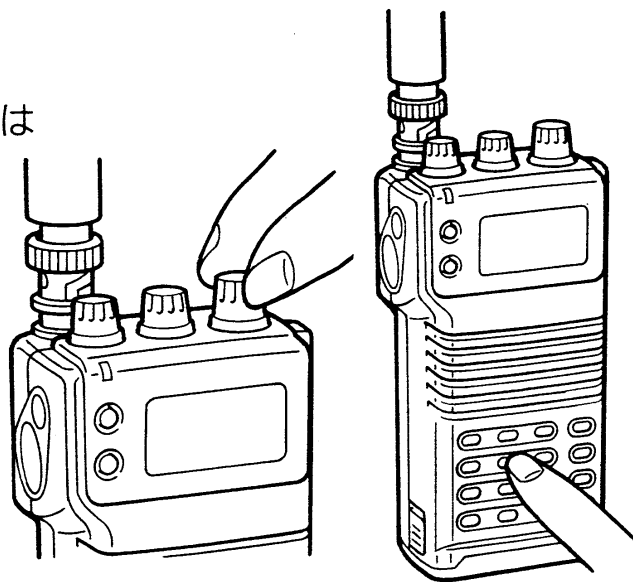
ダイヤル
または
数字キーで
セットします。



■メモリスキャン範囲B

メモリスキャン範囲Aのもう一方をセットします。

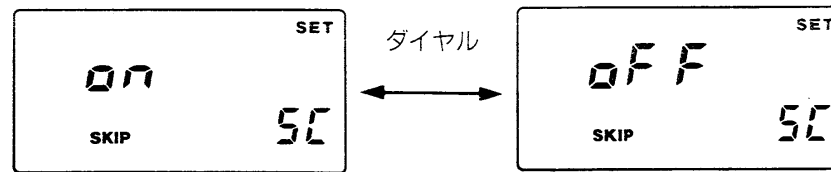
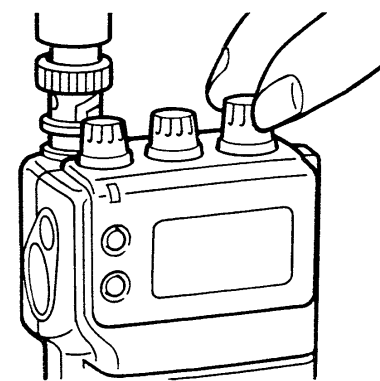
ダイヤルまたは
数字キーで
セットします。



■プログラムスキップスキャン機能のON/OFF

- プログラムスキップスキャンの機能を無効にすることができます。
- OFFにすると、プログラムスキャン時に“SKIP”の書き込みができなくなるとともに、プログラムスキップスキャンができなくなります。

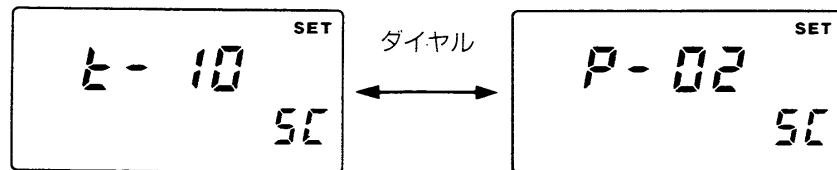
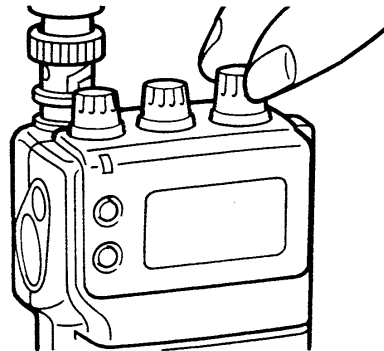
ダイヤルで
セットします。



■スキャン一時停止時の再スタート条件

- スキャン中に信号受信で一時停止したとき、信号が続いている場合、約10秒で再スタートします。
(初期時)
- “P-02”にセットすると、受信信号が続いていると再スタートしません。なお、信号がとぎれると、約2秒後再スタートします。

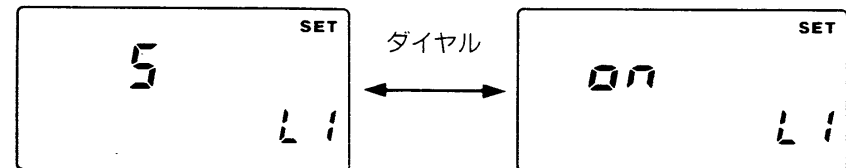
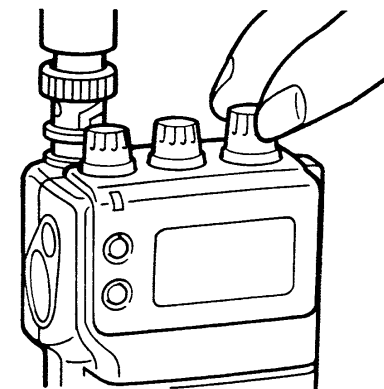
ダイヤルで
セットします。



■ディスプレイランプのコントロール

- 通常、ディスプレイの照明ランプは、LIGHTスイッチを押し、点灯してから約5秒で自動的に消灯させています。
- “ON”にセットすると、LIGHTスイッチを押すごとに点灯/消灯を行い、自動消灯しなくなります。

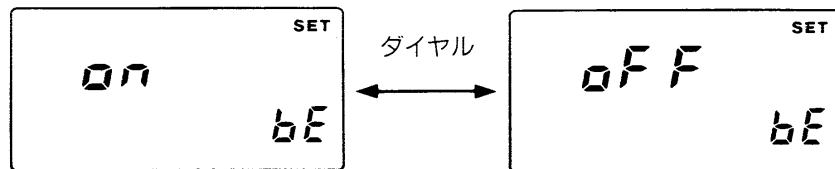
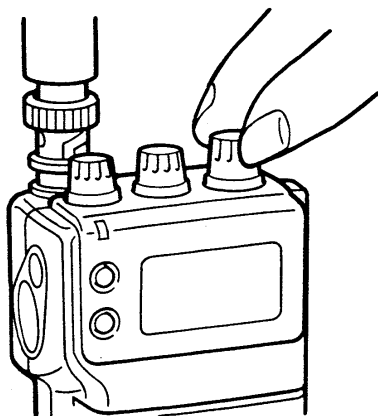
ダイヤルで
セットします。



■ビープ音(操作音)のON/OFF

- ビープ音をON/OFFすることができます。
- “OFF”にセットすると、操作時の音が出なくなります。

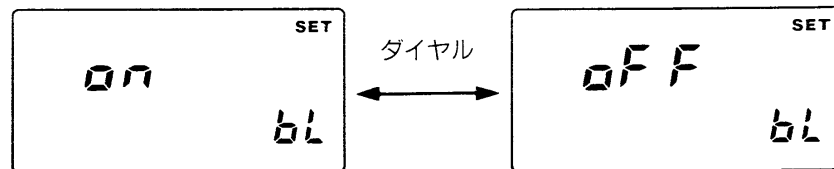
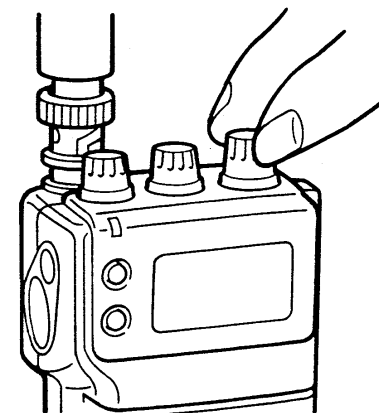
ダイヤルで
セットします。



■RX(受信)ランプのON/OFF

- 信号を受信すると、RXランプが点灯します。
- “OFF”にセットすると、信号を受信しても点灯しなくなります。

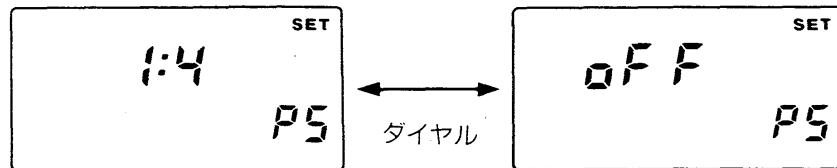
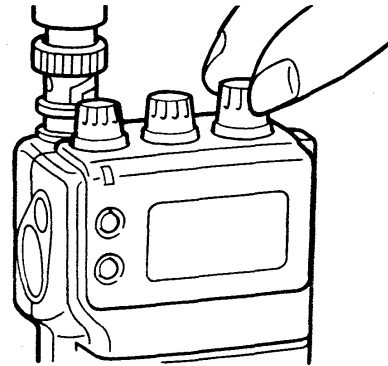
ダイヤルで
セットします。



■パワーセーブの時間比設定

- 電池の消耗を防ぐパワーセーブ機能を働かせる時間比を設定します。
- 比を大きくするほどパワーセーブする時間が多くなります。
- “OFF”にセットするとパワーセーブ機能は働きません。

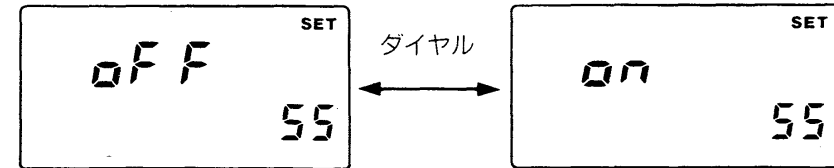
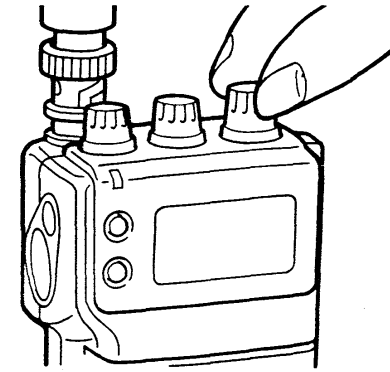
ダイヤルで
セットします。



■パワーセーブスキヤンのON/OFF

- スキヤン中でもパワーセーブ機能を働かせることができます。
- “ON”にセットすると、スキヤン中信号がないとき、パワーセーブ機能が働きます。(時間比は前項目でセットしたもの)

ダイヤルで
セットします。

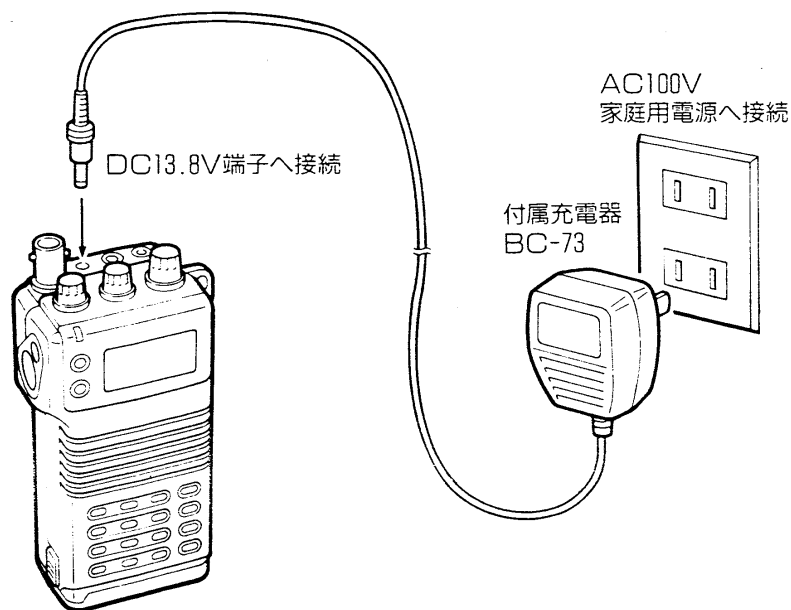


充電のしかた

■充電の時期

- (1)ディスプレイに **B** が点灯しはじめたとき
- (2)ディスプレイの表示がうすくなったとき
- (3)受信音がいつもより小さくなったときなど

付属の充電器BC-73で内蔵NiCd電池を充電



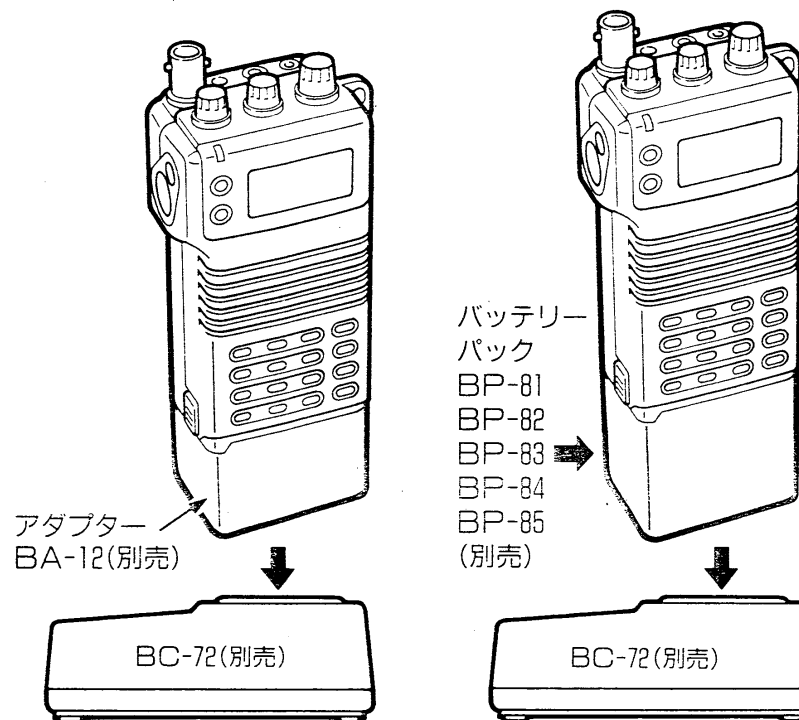
- ※必ずボトムキャップを取り付けてください。
- ※電源をONにすると充電できません。
- ※充電完了時間の目安は約15時間です。

■運用時間の目安(連続受信した場合)

- 満充電された内蔵電池では1時間10分～1時間半程度です。これはオプションのBP-82と同等です。BP-83では約2倍、BP-84では約3.3倍の運用時間となります。

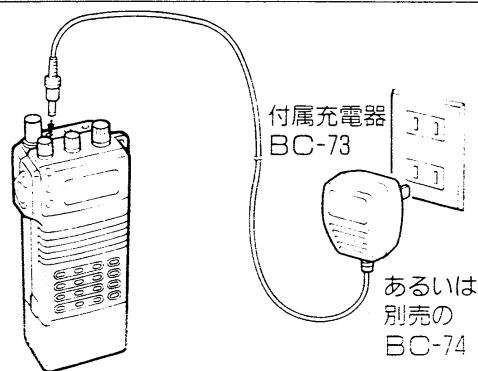
急速充電器BC-72(別売)で充電

- 内蔵NiCd電池の充電
- 別売のバッテリーパックの充電



- ※充電の目安は約1時間です。
- ※BC-72ではBP-90の充電はできません。

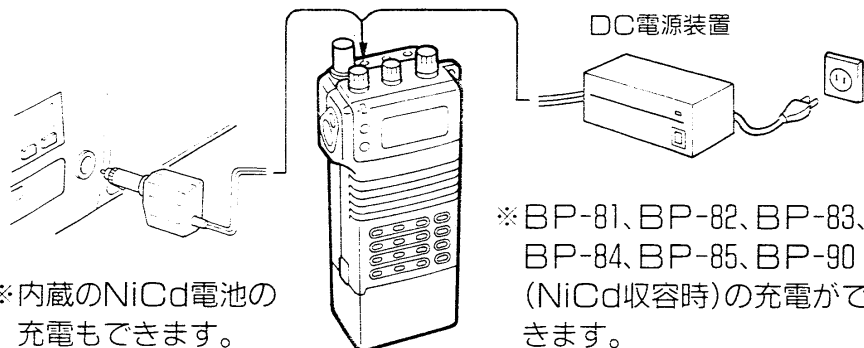
別売のバッテリーパックの充電。



- ※BC-73はBP-81、BP-82のみ。
- ※BC-74はBP-81、BP-82、BP-83、BP-84、BP-90 (NiCd収容時)の充電ができます。
- ※充電の目安は約15時間です。

車内で充電。

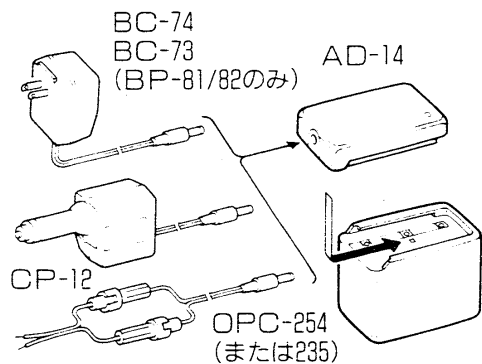
DC電源で充電。



※内蔵のNiCd電池の充電もできます。

- ※BP-81、BP-82、BP-83、BP-84、BP-85、BP-90 (NiCd収容時)の充電ができます。

バッテリーパックを単独で充電。



- ※BC-73ではBP-81、BP-82の充電しかできません。
- ※他は、BP-81、BP-82、BP-83、BP-84、BP-90 (NiCd収容時)の充電ができます。
- ※充電用アダプターAD-14が必要です。

オプション (別売品)

- 本機を使用する場所や、目的に合わせて、いろいろな楽しみかたができるオプションをご利用ください。

■バッテリーパック (NiCd電池)

商品名	容量	電圧	サイズ(高さ)	選択のめやす
BP-81	110mAH	7.2V	30mm	<ul style="list-style-type: none"> ●できるだけ連続で長時間受信したい場合は、容量の大きなもの ●できるだけ小型で軽いものはサイズ(高さ)で選んでください。
BP-82	300	7.2	40	
BP-83	600	7.2	60	
BP-84	1000	7.2	76	
BP-85	340	12.0	76	

※上記以外に、市販の単三形NiCdまたは乾電池を6本収容できるバッテリーケースBP-90があります。

■充電器および電源用オプション

商品名	通称	入力電圧	使用目的
BC-72	デスクトップチャージャー	AC100V DC13.8V	急速(約1時間)充電用
BC-73	ウォールチャージャー	AC100V	BP-81/82充電用(約15時間)
BC-74	ウォールチャージャー	AC100V	全バッテリーパック充電用(約15時間)
CP-12	シガレットライターケーブル	DC12~16V	車内での電源または充電用
OPC-254	外部電源コード	DC13.8V	外部電源または充電用
AD-14	充電用アダプター	DC12~16V	バッテリーパック単体充電用
BA-12	BC-72用アダプター		内蔵電池急速充電用(約1時間)

■その他のオプション

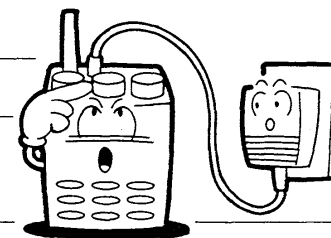
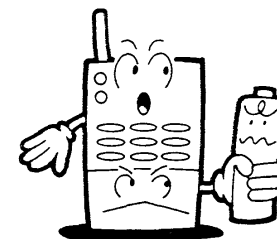
- イヤホン(SP-13)
- ヘッドホン(HP-4)
- 外部スピーカー(SP-10, SP-12)
- マウントブラケット(MB-30)本体を壁にかけたり、車内に取り付ける金具
- キャリングケース(LC-57/59/61)バッテリーパックのサイズに適応
- 価格、その他くわしくは販売店でカタログをお求めください。

※充電しながら運用することができますが、15時間以上になりますと、過充電のおそれがありNiCd電池を劣化させますから、長時間運用の際は、充分にご注意願います。

故障かなと思っても

■故障かな?と思っても、次の症状の場合は、もう一度参照ページをよくお読みください。

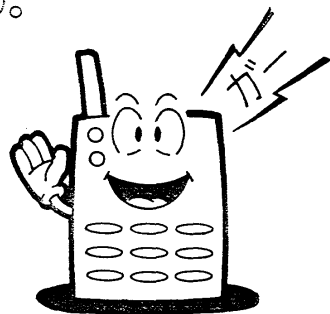
症 状	原 因	参照ページ
<ul style="list-style-type: none"> ●電源を入れても表示が出ない ●メモリーの内容が消えている 	<ul style="list-style-type: none"> ●リチウム電池の完全放電 	48
<ul style="list-style-type: none"> ●受信音が弱い・歪む・雑音が多いなど正常でない 	<ul style="list-style-type: none"> ●周波数のズレ(TSの設定まちがい) ●電波型式のまちがい ●スケルチを右にまわしすぎ ●機械の内部発振によるもの ●妨害電波によるもの ●電池の消耗 	18 7 8 60 60 46
<ul style="list-style-type: none"> ●キーボードまたはダイヤルで選局ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ●VFOモード以外になっている ●周波数ロックになっている 	8 45
<ul style="list-style-type: none"> ●M-CHが呼び出せない 	<ul style="list-style-type: none"> ●操作モードのまちがい ●呼び出し操作のまちがい 	29 30
<ul style="list-style-type: none"> ●スキャンがスタートしない 	<ul style="list-style-type: none"> ●スケルチを左にまわしすぎ ●スタート操作のまちがい ●必要な設定準備をしていない 	8 33 21、33
<ul style="list-style-type: none"> ●スキャンが遅い 	<ul style="list-style-type: none"> ●スキャンスピードの設定まちがい ●パワーセーブスキャンになっている 	52 56
<ul style="list-style-type: none"> ●SETモードにならない 	<ul style="list-style-type: none"> ●VFOモード以外になっている 	50
<ul style="list-style-type: none"> ●内蔵電池の充電ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ●本体の電源を切らずに充電している ●別売のパックをはずしていない 	57 57



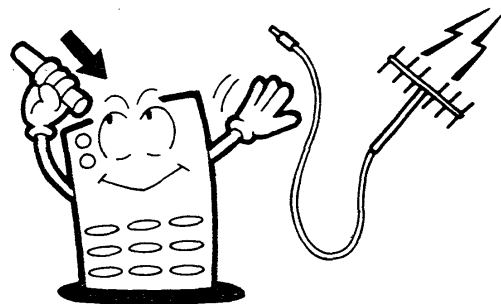
アフターサービス

■故障ではありません。

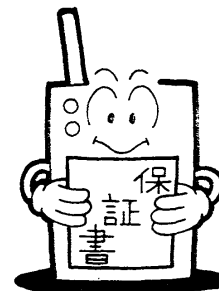
- 本機は、広い周波数を受信できるようになっていますが、設計上、一部の周波数帯の受信ができにくくなったり、雑音を発生する周波数がありますが、故障ではありません。



- 使用する地域によっては、あるいは外部アンテナを使用したりすると、近くにある強力な電波によって妨害を受けることがあります。このような場合は、強力な信号から離れた周波数帯を受信するか、外部アンテナをはずし、付属のアンテナをご使用ください。



商品に万一不具合な点があったり、故障が生じたときは必要な事項を記入した保証書と、具体的な症状を明記のうえ、お買い上げの販売店もしくは弊社サービスステーションへご持参ください。なお、保証規定につきましては、保証書をよくお読みください。



弊社サービスステーションの住所は裏表紙に記載されております。

定格

●受信周波数範囲：動作周波数範囲(MHz)

0.1~252.9 255.1~261.9
266.1~270.9 275.1~379.9
382.1~411.9 415.1~809.9
834.1~859.9 889.1~914.9
960.1~1300.0

但し、保証周波数は2~905MHzの範囲とする。

●受信電波型式：AM/FM/ワイドバンドFM(WFM)

●周波数ステップ：0.5/5/8/9/10/12.5/15/20/25/30/50 kHz

●アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡

●電源電圧：DC7.2V 標準
DC6~16V 接続可

●接地方式：マイナス接地

●消費電流(DC13.8V時)：パワーセーブ時 約15mA
(デューティ比1:16時)
最大出力時 300mA以下

●使用温度範囲：-10°C~+60°C

●寸法(突起物含まず)：49(W)×102.5(H)×35(D)mm

●重量：約280g

●受信方式：AM/FM
トリプルスーパーヘテロダイン方式
W FM
ダブルスーパーヘテロダイン方式

- 受信感度：AM 2~24.9995MHz
(AMは1kHz、30%) +4dB μ (10dB S/N)
(WFMは1kHz、50kHz DEV) 25~905MHz
-2dB μ (10dB S/N)
2~24.9995MHz
-2dB μ (12dB SINAD)
25~905MHz
-8dB μ (12dB SINAD)
W FM 2~24.9995MHz
+16dB μ (12dB SINAD)
25~905MHz
+10dB μ (12dB SINAD)
- スケルチ感度：AM 2~24.9995MHz +2dB μ
25~905MHz -4dB μ
FM 2~24.9995MHz -4dB μ
25~905MHz -10dB μ
- 選択度：AM 15kHz以上/-6dB
FM 15kHz以上/-6dB
W FM 150kHz以上/-6dB
- 低周波出力：0.15W以上(7.2V、8Ω、10%歪時)
- 低周波負荷インピーダンス：8Ω

メモ

受信した信号の周波数、モード、内容などを記入しておく便利です。

周波数	モード	内容	メモリー番号	周波数	モード	内容	メモリー番号

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547 大阪市平野区加美東6丁目9-16	TEL (011)251-3888
北海道営業所	060 札幌市中央区大通東9丁目14	TEL (022)285-7785
仙台営業所	982 仙台市若林区若林1丁目13-48	TEL (022)285-7785
東京営業所	130 東京都墨田区緑1丁目22-14	TEL (03)5600-0331
名古屋営業所	466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3	TEL (052)842-2288
金沢出張所	921 金沢市高島1丁目335	TEL (0762) 91-8881
大阪営業所	547 大阪市平野区加美南1丁目8-35	TEL (06)793-0331
広島営業所	733 広島市西区観音本町2丁目10-25	TEL (082)295-0331
四国営業所	760 高松市塩上町2丁目1-5	TEL (0878) 35-3723
九州営業所	815 福岡市南区塩原4丁目5-48	TEL (092)541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。